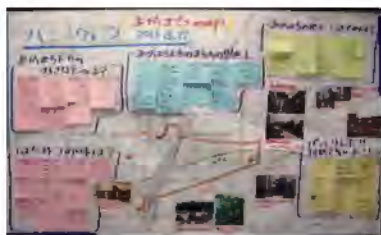


附属資料

目次

ささえあう ^{いのち} 生命の輪 ^を (目黒区生物多様性地域戦略策定検討委員会委員長)	76
附一 1 策定検討委員会	77
附一 2 計画作りへの参加	
(1) 意見募集イベント	78
(2) みんなで選んだめぐろのいきもの 80 選	80
附一 3 「めぐろの風景」における自然回復目標種の設定理由	82
附一 4 いきものに配慮した植栽(在来種の例など)	
(1) 拠点緑地の構成樹種の例	83
(2) 外来生物法で植栽等が規制されている種類	83
附一 5 生物多様性の説明	
(1) 生物多様性基本法 前文	84
(2) 三つの多様性	84
(3) 臨界点	84
(4) 生物多様性の 4 つの危機	85
附一 6 目黒区の鳥類リスト	86
附一 7 生物名索引	87
附一 8 未来のすがた図に描かれている動物	90
附一 9 用語説明	91
附一10 出典と参考資料	99
附一11 要約	101

計画づくりのためのイベント



ささえあう^{いのち}生命の輪^わ

生物多様性基本法では、各地方自治体もそれぞれの生物多様性地域戦略を定め、施策を計画的に推進することが求められています。ここ目黒区においても国家戦略の方針に従って地域戦略を策定することになりました。

私の研究室がある東京大学・駒場キャンパスが目黒区にある縁もあり、目黒区の生物多様性地域戦略策定検討委員会の委員長を引き受けることになりました。実は、目黒区は生物多様性が国際的な課題になる前から、区内の生物調査や公園の整備などの活動を積極的に行ってきた歴史がある自治体です。その基盤があるため、今回の委員会には、区民の方やボランティア活動をされている方など、「多様性」に富んだ人選となっていて、さまざまな視点からの検討が可能となりました。

今回の最も大きな課題としては、目黒区は東京都 23 区のひとつであり、都市部における生物多様性地域戦略という位置づけを持つことです。都市部では、手つかずの自然はほとんどなく、多くは人工的に作られたものであるため、都市部の地域戦略は自ずと自然の豊かな地域とは異なるものにならざるを得ません。委員会での熱心な検討の結果、いかに都市の中の自然に親しみをもち、その価値に気づき、そしてそれを大切にしていくのか、ということの主眼において戦略を組み立てようということになりました。

もうひとつ考慮しなければならなかったことは、「生物多様性」という言葉自体、私たち区民への認識が進んでいなかったことです。確かに「生物多様性」という言葉は古くからあるものではなく、また、遺伝子、種、生態系などの階層があるなど複雑な構造のものです。そのため、地球環境のもうひとつの大きなテーマである地球温暖化が「平均気温」というわかりやすい目安があるのに対して、生物多様性を実感するのは簡単なことではありません。

このようなことから、本地域戦略では、生物多様性をあえて「ささえあう^{いのち}生命の輪^わ」という言葉に置き換えて、できるだけ多くの区民に親しんでもらおうということになりました。これらを始めとした長時間にわたる議論のおかげで、都市における地域戦略として、独自性が高く市街地を持った都市部の参考となるべきものができたと確信しています。

この目黒区生物多様性地域戦略をきっかけとして、より多くの区民の皆様が、身の回りの自然を振り返り、親しみを持って接するようになることを心から願っています。また、さまざまな行政にたずさわる方々には常に「生物多様性」を心の片隅において計画や施策の立案と実行をお願いしたいと考えます。

最後に、戦略策定のために長い期間にわたって議論を繰り返し行ってきた本委員会の委員、ご意見をいただいたたくさんの区民、および策定の活動を支えていただいた皆様に感謝いたします。

2014(平成 26)年 3 月

目黒区生物多様性地域戦略策定検討委員会を代表して

委員長 伊藤 元己

附-1 策定検討委員会

○ 目黒区生物多様性地域戦略(仮称)策定検討委員会(要綱により設置)委員名簿

(2013(平成25)年4月1日現在 五十音順・敬称略)

	氏 名	所 属 団 体 等
1	石川 雅子	中目黒公園活動登録団体 さーくる・ガーデン・クラブ
2	市田 淳子	区民 自然通信員
3	◎伊藤 元己	東京大学大学院総合文化研究科教授・ 自然科学博物館館長(生物多様性分野)
4	上田 衛門	区民 自然通信員
5	○倉本 宣	明治大学農学部教授(造園分野)
6	西村 康樹	自由が丘商店街振興組合出版企画事業部長 産業能率大学兼任講師
7	早野 木の美	環境カウンセラー 消費生活アドバイザー(消費生活分野)
8	矢野 亮	国立科学博物館附属自然教育園 名誉研究員(環境教育分野)
9	渡島 郁弘	目黒区立不動小学校長

◎委員長 ○副委員長

区民2名は公募

○検討の経緯

第1回：2012(平成24)年11月29日

内容 生物多様性地域戦略策定に向けた区の考え方について
目黒区における生物多様性の現状と課題について

第2回：2013(平成25)年4月13日

内容 目黒天空庭園・おおはし里の杜見学
第一回策定検討委員会の意見と検討事項の確認
基本目標について(基本テーマと目標設定)
施策の方向性(施策の方向性と柱立て)
懇談会の開催に向けて
「80 選のいきものたち(仮称)」の作成について



第3回：2013(平成25)年6月7日

内容 第2回策定検討委員会の意見と検討事項の確認
中間のまとめ(案)について

第4回：2013(平成25)年10月3日

内容 「中間のまとめ」に対する区民意見と素案に向けた対応の方向性について
これまでの検討委員会の意見と検討事項の確認
素案(案)について

第5回：2014(平成26)年1月16日

内容 パブリックコメントの実施結果について
地域戦略(案)について



附-2 計画作りへの参加

(1) 意見募集イベント



2012(平成24)年

- 7月25日 ○みんなで選ぶめぐろのいきもの80選(9月30日まで)
○区立小学校児童 好きないきもの調査

2013(平成25)年

- 7月25日 ○中間のまとめ意見募集(8月31日まで)
○生物多様性パネル展

- 7月27日 ONPO 法人管刈ネット21 自然観察会と未来マップの作成(菅刈公園)

- 8月4日 ○駒場野フォーラム未来マップの作成(駒場野公園)

- 8月5日 ○区民懇談会(目黒区総合庁舎)
○講演:60年間のいきものの変動

- 8月10日 ○いきもの池・原っぱクラブ親子虫捕り教室と未来マップの作成(中目黒公園)

- 8月17~18日 めぐろいきもの学校 (あおぞら銀行フィナンシャルオアシス自由が丘)

- まち歩き ハニーウォーク、野菜ウォーク
○ミニ教室 自由が丘とまちづくり、生物多様性と江戸野菜、昆虫のおはなし、
生物多様性って なに?、めぐろのいきもの
○トークセッション ~50年前の目黒といきものたち~
○生物多様性パネル展 明治大学農学部、産業能率大学、エコライフ目黒、
公益財団法人日本自然保護協会、自由が丘商店街振興組合

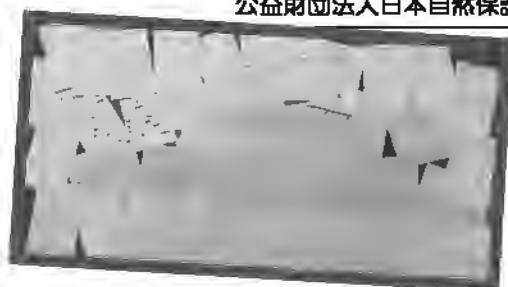
- 8月24日 ○碑文谷公園いきもの発見隊と未来マップの作成・協力碑文谷公園くらぶ

- 11月25日 ○素案意見募集(12月25日まで)

- 12月8日 野鳥のすめるまちづくりの集い(目黒区総合庁舎大会議室)

- 講演・トークミーティング
「確かな未来は懐かしい風景の中に」

- 活動報告
「原っぱの活動」中目黒公園 いきもの池・原っぱクラブ*
「五本木の森の活動」 目黒区立五本木小学校3年生
「公園の活動 里山化する都市公園」駒場野ホテルの会*
「街の活動 丘ばちプロジェクト」自由が丘商店街振興組合
○パネル展 明治大学農学部、環境三四郎、公益財団法人日本野鳥の会、
公益財団法人日本自然保護協会



寄せられたご意見の一部

《意見募集結果概要》

○中間のまとめの意見募集

	個人(人)	団体(団体)	議 会	計
提出者数	422	48	1	471
意見数	620	83	6	709

期間:2013(平成 25)年 7 月 25 日～8 月 31 日

○素案の意見募集結果

	個 人	団 体	議 会	計
提出者数	94	17	1	112
意見数	162	23	7	192

期間:2013(平成 25)年 11 月 25 日～12 月 25 日

《区立小学校児童好きないきもの調査》

参加校 区立小学校 22 校 1,464 名の児童が参加

○種類得票数 動物 2,880 票(224 種類) 植物 2,661 票(156 種類) 合計 5,541 票(386 種類)

○ 1 位 カブトムシ、2 位 メダカ、3 位 草、4 位 アサガオ、5 位 キンギョ、6 位 クワガタ
7 位 ヒマワリ、8 位 トカゲ (実施期間はいきもの 80 選と同じ)

○いきものたちへのメッセージ(選)

《同じいきもの》

- ・ぼくたちはにんげん。きみたちはむし、とり、くさ、はな、き、さかな、きのこなど。ぜんぜんちがうけど、おなじいきもの(油面小学校 1 年生)
- ・私たち人げんも、同じ生き物だから、場所と場所をわけあって、いっしょに生きていきましょう。これからも、たのしく平和にそして、仲よく生きていきましょう(下目黒小学校 3 年生)
- ・ぼくたちと同じ命をもついきものたちを大切にしていきたいです(原町小学校 4 年生)

《未来に》

- ・100 年たっても、200 年たってもめぐるから、いなくならないでください(八雲小学校 2 年生)
- ・わたしたち 3 年生は、「未来の森を作ろう」という学習をしていて、できるだけ多くのいきものがしあわせて、とてもすてきな未来の森にしたいです(五本木小学校 3 年生)

《感 謝》

- ・地球を彩り、とても美しい風景を作ってくれてありがとうございます。見ただけで心がなごみます。さまざまな種類のいきものがいますが、全てにかんしゃします(駒場小学校 4 年生)
- ・こんなに身ぢかにいろいろないきものがいるとはしりませんでした。山に行ったとき空気がおいしいのは、あなたたちのおかげなのかもしれません(駒場小学校 4 年生)
- ・りんしの森のサクラさん。春になるときれいな花をさかせてくれて、ありがとう。毎年あなたの木の下でおはなみをしています(不動小学校 3 年生)
- ・花や草、木は大きくなって、りっぱになってほしい。太陽にたくさんあたり、水をもらい、自然をふやしてほしい。いい香りがでるから、たくさん香りをだしてほしい(月光原小学校 6 年生)

《いきものたちへ》

- ・ロゼットなどで冬ごしするのがとってもすごい。生きる知えをはたかせているのがとてもすごい(駒場小学校 4 年生)
- ・ぼくがコオロギさんをえらんだのは、育てた時に夜に、コオロギさんの歌がとてもきれいだったからです(五本木小学校 3 年生)

《みどりをふやして》

- ・最近、大都会では緑が少なくなり、空気はよごれていて、たぶん動物たちがすめないかんきょうになってしまったと思います。だから、生き物とふれあえるように、空気をきれいにするなど、動物たちに良い所にしていきたいです(大岡山小学校 4 年生)
- ・目黒川のサクラさんへ これからも、人々たちを「すごい!」「キレイ!」など、よろこばせてください(田道小学校 4 年生)

《人間の都合で》

- ・もともと日本に住んでいる生き物たちが人間の自分勝手なことで外来種を放ったために、いまいる日本の生き物たちが、げきげんしたことは本当にごめんなさい(東山小学校 4 年生)
- ・ムダな電気を消して、しょうエネして生き物たちが、すめるように心がけます。緑や自然を大切にしたいです(東山小学校 4 年生)

(2) みんなで選んだめぐろのいきもの 80 選

区制施行 80 周年記念事業「みんなで選ぶめぐろのいきもの 80 選」(「ふるさとめぐろ」のいきものたちを見つめ直し、「子どもたちの未来」に向けて、まもり、伝え、呼び戻したい 80 種の身近ないきもの選び)には、延べ 664 人が参加し、417 種類のいきものに 4,433 票が投票されました。結果は目標種等の設定に使用しました。

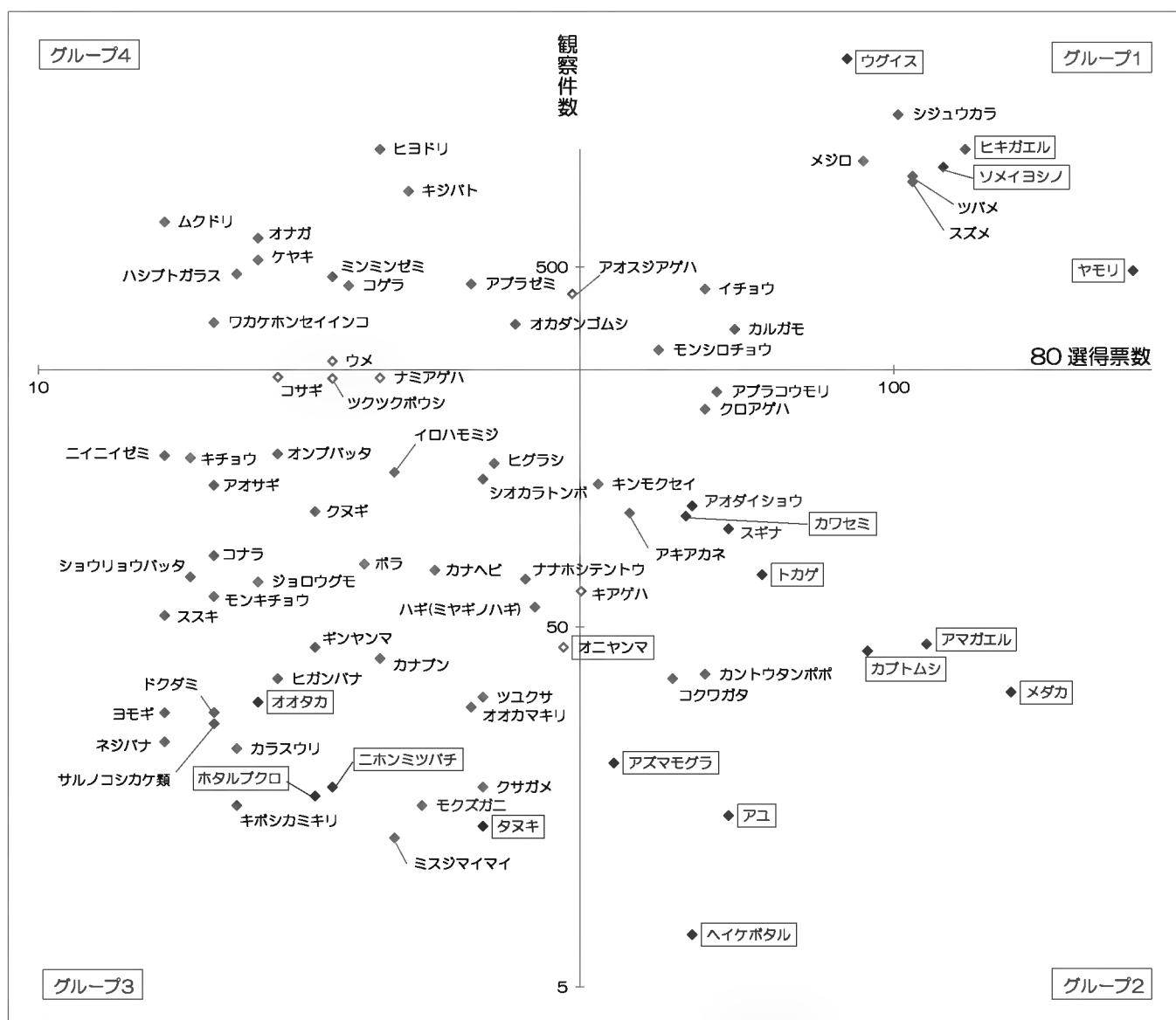
附表一1 いきもの 80 選の得票数順位

投票期間:2012(平成 24 年)7 月 25 日～10 月 31 日

順位	種 名	得票数	分 類	順位	種 名	得票数	分 類
1	ヤモリ(ニホンヤモリ)	190	爬虫類	41	カナヘビ (ニホンカナヘビ)	29	爬虫類
2	メダカ	137	魚類	42	モクズガニ	28	甲殻類
3	ヒキガエル (アズマヒキガエル)	121	両生類	43	キジバト	27	鳥類
4	ソメイヨシノ	114	植物	44	イロハモミジ	26	植物
5	アマガエル (ニホンアマガエル)	109	両生類	45	ミスジマイマイ	26	貝類
6	スズメ	105	鳥類	46	カナブン	25	昆虫
7	ツバメ	105	鳥類	47	ヒヨドリ	25	鳥類
8	シジュウカラ	101	鳥類	48	ナミアゲハ(アゲハ)	25	昆虫
9	カブトムシ	93	昆虫	49	ボラ	24	魚類
10	メジロ	92	鳥類	50	コゲラ	23	鳥類
11	ウグイス	88	鳥類	51	ウメ	22	植物
12	トカゲ(ニホントカゲ)	70	爬虫類	52	ツクツクボウシ	22	昆虫
13	カルガモ	65	鳥類	53	ミンミンゼミ	22	昆虫
14	アユ	64	魚類	54	ニホンミツバチ	22	昆虫
15	スギナ	64	植物	55	ホタルブクロ	21	植物
16	アブラコウモリ	62	哺乳類	56	ギンヤンマ	21	昆虫
17	カントウタンポポ	60	植物	57	クヌギ	21	植物
18	クロアゲハ	60	昆虫	58	ヒガンバナ	19	植物
19	イチョウ	60	植物	59	コサギ	19	鳥類
20	ハイケボタル	58	昆虫	60	オンブバッタ	19	昆虫
21	アオダイショウ	58	爬虫類	61	ケヤキ	18	植物
22	カワセミ	57	鳥類	62	ジョロウグモ	18	クモ類
23	コクワガタ	55	昆虫	63	オナガ	18	鳥類
24	モンシロチョウ	53	昆虫	64	オオタカ	18	鳥類
25	アキアカネ	49	昆虫	65	カラスウリ	17	植物
26	アズマモグラ	47	哺乳類	66	キボシカミキリ	17	昆虫
27	キンモクセイ	45	植物	67	ハシブトガラス	17	鳥類
28	キアゲハ	43	昆虫	68	コナラ	16	植物
29	アオスジアゲハ	42	昆虫	69	サルノコシカケ類	16	キノコ
30	オニヤンマ	41	昆虫	70	アオサギ	16	鳥類
31	ハギ(ミヤギノハギ)	38	植物	71	ワカケホンセイインコ	16	鳥類
32	ナナホシテントウ	37	昆虫	72	ドクダミ	16	植物
33	オカダンゴムシ	36	甲殻類	73	モンキチョウ	16	昆虫
34	ヒグラシ	34	昆虫	74	キチョウ(キタキチョウ)	15	昆虫
35	クサガメ	33	爬虫類	75	ショウリョウバッタ	15	昆虫
36	ツクサ	33	植物	76	ニイニイゼミ	14	昆虫
37	タヌキ(ホンドタヌキ)	33	哺乳類	77	ヨモギ	14	植物
38	シオカラトンボ	33	昆虫	78	ススキ	14	植物
39	アブラゼミ	32	昆虫	79	ネジバナ	14	植物
40	オオカマキリ	32	昆虫	80	ムクドリ	14	鳥類

()内は標準和名*

《80 選のいきものの得票数と区民等の観察記録件数》



:回復目標指標種に設定したもの(P.38,39)

グループ	特徴	指標種として選定するうえでの効果
1	得票数 多：親近感が強い 観察数 多：見つけやすい	多くの方に関心を持っていただく、あるいは調査に参加してもらうために有効と考えられます
2	得票数 多：親近感が強い 観察数 少：見つけにくい ^{注1}	見つけにくいので宝探し感覚で飽きさせない効果が期待できると考えられます
3	得票数 少：親近感が弱い 観察数 少：見つけにくい	目立たないいきものにも目を向けてもらう、あるいは希少ないいきものの生息状況を確認するために有効と考えられます
4	得票数 少：親近感が弱い 観察数 多：見つけやすい	好感度が低い、関心が低いいきものにも目を向けてもらうために有効と考えられます

注1 「見つけにくい」には個体数(少ない)、大きさ(小さい)、生息場所(水中、土壌中など)、行動(夜行性など)などの要素が含まれます

附図ー1 80 選のいきものと観察記録件数

めぐろのいきもの80 選で投票のあったいきものについて、その得票数と「いきもの住民台帳」に記録されている観察件数により4 グループに区分し、指標種設定の参考にしました

附-3 「めぐろの風景」における自然回復の目標種の設定理由

(附表-2) P.38、39 参照

区 分	目標種(ガイド種)と設定理由
庭地の風景	植●タチツボスミレ：雑木林*の萌芽更新*や落ち葉かき等の管理作業により群落が維持される 昆●トウキョウヒメハンミョウ：土の面の残る住宅地で見られる。土の面が広がれば、更に広域の住宅地に広がると考えられる 両●アズマヒキガエル 地表面が回復し連続することで分布が広がると考える。現状でも生息しているが、自然教育園(港区)での激減の例もあることなどから目標種にも設定する 爬●ニホントカゲ：多孔質のある空間が増え、餌の昆虫等が増加することによって分布が広がる 鳥●ウグイス：庭や公園の一角などに樹林や藪地ができることにより、冬季の餌の確保が可能となり、分布が広がることが見込まれる
小さな水辺の風景	昆●ゲンゴロウ類：コシマゲンゴロウ、ハイロゲンゴロウ等これまで目黒区で観察例のある種類。水辺環境の整備に伴い回復すると考えられる 昆●キイトンボ：水草のよく茂った池や沼に生息する。区内では駒場野公園の水田で記録がある水質や植生などの環境が整えば、飛来すると考えられる 魚●メダカ：区民に親しまれている水辺の生物の代表種。ピオトープ*池に導入することで生息 両●ニホンアマガエル(産卵)：産卵池として庭や公園、学校内の池を確保し、樹林地と一帯となった環境を育成することにより、繁殖地とすることができると考えられる
屋敷林や鎮守の森の風景	植●ホタルブクロ：かつては区内の住宅地各所で見られたが、現在では大学構内の樹林地に少数が残っており、条件が整えば分布が広がる可能性があると考え ク●キシノウエトタテグモ：少数が公園などで見られており、環境が整えば広がる可能性がある 昆●カブトムシ：樹林内の落ち葉の堆積によって、回復すると考えられる 昆●ムラサキツバメ：南方系のチョウ。シイ・カシ類などの常緑樹を好む。近年、公園などで見られるようになっており、樹林の育成によって分布が広がると考えられる 鳥●アオバズク(繁殖)：木の洞で繁殖する鳥。ケヤキやムクノキなどの樹木が育成することによって、巣作りの環境ができると見込まれる 哺●アズマモグラ：樹林と樹林との間が土の面で連続することによって、回復すると考えられる
草はらの風景	植●ホタルブクロ：前出 昆●トノサマバッタ：広い草地環境で見られており、環境が整えば分布を広げると考えられる 鳥●モズ(繁殖)：草地環境のほか、低木類等の茂みなどのある環境が育成されることにより、巣作りの箇所が確保される
雑木林や畑・水田の風景	き●オニフスベ：現在でも、公園などの林床*や草はらなどで見られるきのこ 植●ギンラン：山地の林内に多く見られる。現在、わずかだが区内でも見られる。環境が整えば、回復すると考えられる 昆●タマムシ：現在でも、公園等の立ち枯れた木で見られ、枯れ木の管理法で回復可能と考える。 昆●アカシジミ：コナラやクヌギの多い雑木林で見られるチョウ。環境が整えば、回復すると考えられる 昆●ヘイケボタル：住民活動で回復が試みられている 両●ニホンアマガエル：水田と一体となった雑木林の育成により回復が見込まれる 鳥●ヤマガラ(繁殖)：林にすむ。現在でも、公園や大学構内の林などで見られるが、樹林環境が回復すれば繁殖が可能になると考える
都市の森の風景	植●ラン類：シュラン、マヤラン、タシロラン、ギンラン等目黒区で記録のある種類を想定。山地の林内に多く見られる。踏圧の減少など林内の環境が整えば、回復すると考えられる 鳥●キビタキ(繁殖)：山の森にすむ。現在でも渡りの途中で区内の公園等に飛来しているが、区内の樹林の環境が回復すれば、区内でも繁殖の可能性があると考えられる 鳥●オオタカ：山の森にすむ。現在でも都立林試の森公園など区内の大面積の公園等で見られる 哺●ホンドタヌキ：近年、区内の庭や公園で観察されており、分布が広がる可能性がある
広がりのある水辺の風景	植●ミクリ：大学構内の池などに生育していたが、現在では見られていない 昆●オニヤンマ：現在、大学構内の林縁の流れなどで見られ、公園等でも生息・生育できる環境が整えば、回復すると考えられる 魚●アユ(産卵)：河床の工夫や水質の改善により餌となるコケ類が生育するなど産卵の環境が整えば回復すると考えられる 鳥●カイツブリ：あまり波の立たない大きな川や池を好む。公園などへの飛来が稀に見られる 鳥●カワセミ(繁殖)：港区の国立科学博物館附属自然教育園での繁殖例もあり、巣づくりをする場所や子育てに必要な豊富な餌などが総合的に回復されれば、繁殖が可能と考える
新しいみどりの風景	昆●ニホンミツバチ：営巣環境の保全や吸蜜植物*が増えることで、分布が広がると考えられる 爬●ヤモリ：樹林性だが建物にも好んで住む。餌となるの昆虫等が生息する環境が必要 鳥●チョウゲンボウ：区内の住宅地や公園などで上空を通過するものが見られている。区外だが、市街地のビル等で繁殖例があり、環境が整えば目黒区でも繁殖することも可能と考える

き●きのこ 植●植物 ク●クモ類 昆●昆虫 甲●甲殻類 魚●魚類 両●両生類 爬●爬虫類 鳥●鳥類 哺●哺乳類

附－４ いきものに配慮した植栽

（１）拠点緑地の構成樹種の例

○いきもののゾーン 在来種*

- 高木 アオハダ、アカガシ、アカシデ、アカマツ、イタヤカエデ、イヌザクラ、イヌシデ、イロハモミジ、ウワミズザクラ、エゴノキ、エノキ、オオモミジ、オニグルミ、カシワ、カツラ、クサギ、クヌギ、クマシデ、クリ、クロマツ、ケヤキ、コナラ、コハウチワカエデ、コブシ、ゴンズイ、サワラ、シキミ、シラカシ、スタジイ、ダンコウバイ、トチノキ、ネムノキ、ハクウンボク、ハルニレ、ヒサカキ、ホオノキ、マンサク、ミズキ、ムクノキ、ムクロジ、メグスリノキ、モチノキ、ヤブニッケイ、ヤマグワ、ヤマザクラ、ヤマボウシ、ヤマモモ、リョウブなど
- 低木 アセビ、アキグミ、アブラチャン、イヌツゲ、イヌビワ、イボタノキ、ウツギ、オトコヨウゾメ、ガクアジサイ、ガマズミ、カマツカ、クサイチゴ、クサボケ、クロモジ、サンショウ、シモツケ、タラノキ、ツリバナ、トベラ、ニシキギ、ニワトコ、ノイバラ、ノリウツギ、ハコネウツギ、ハナйкаダ、ハマヒサカキ、フジウツギ、マユミ、マンリョウ、ミツバツツジ、ムラサキシキブ、モミジイチゴ、ヤブコウジ、ヤブデマリ、ヤマコウバシ、ヤマツツジ、ヤマハギ、ヤマブキ、ユキヤナギなど
- つる アケビ、キツタ、サネカズラ、スイカズラ、ツタ(ナツツタ)、ツルウメモドキ、テイカカズラ、ノブドウ、フジ、ミツバアケビ、ヤマブドウなど

○ふれあいのゾーン (庭園・公園樹、街路樹。在来種も利用します)

- 高木 イイギリ、ウメ、エドヒガン、オオシマザクラ、オオヤマザクラ、オガタマノキ、カナメモチ、カリン、キリ、キンカン、キンモクセイ、クスノキ、クロガネモチ、ゲッケイジュ、コウヤマキ、コヒガン、ザクロ、サルスベリ、シダレザクラ、シラカバ、ソメイヨシノ、タイサンボク、ハクモクレン、ハナカイドウ、ハナズオウ、ハナノキ、ハナミズキ、ハナモモ、ヒトツバタコ、ヒメリンゴ、モクレン、モッコク、ユズリハ、ユリノキ、ライラック、ユスラウメなど
- 低木 アベリア、エニシダ、オウバイ、クチナシ、サツキ、シロヤマブキ、ジンチョウゲ、ドウダンツツジ、バラ、ヒュウガミズキ、ビヨウヤナギ、ボケ、ミヤギノハギ、ムクゲ、レンギョウなどで閲覧

○めぐみのゾーン(雑木林、果樹園の樹木)

- 雑木林の木 アケビ、イヌザクラ、イボタノキ、ウグイスカグラ、ウツギ、ウワミズザクラ、エゴノキ、カシワ、ガマズミ、カラタチ、キブシ、クサイチゴ、クサギ、クヌギ、クリ、クロモジ、コナラ、コブシ、サンシュユ、タラノキ、ニワトコ、ノイバラ、ハコネウツギ、ホオノキ、ヤブコウジ、ヤブデマリ、ヤマザクラ、ヤマブキ、ヤマフジ、マンサク、モミジイチゴ、リョウブなど
- 果樹園の木 イチジク、ウメ、カキ、サクランボ、チャ、ナシ、ナツミカン、ナツメ、ブドウ、モモなど

（２）外来生物*法で植栽等が規制されている種類

○特定外来生物*植物リスト ()内は一名 2014年1月1日現在
アゾラ・クリスタータ(アメリカオオアカウキクサ)、アレチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ(ルドベキア・アキニアタ)、オオフサモ、スパルティナ・アングリカ、ナガエツルノゲイトウ(アルテルナンテラナルトサワギク(コウベギク)、ブラジルチドメグサ(ウォーター・マッシュルーム)、ボタンウキクサ(ウォーター・レタス)、ミズヒマワリ(写真)



附-5 生物多様性の説明

(1) 生物多様性基本法 前文

生命の誕生以来、生物は数十億年の歴史を経て様々な環境に適応して進化し、今日、地球上には、多様な生物が存在するとともに、これを取り巻く大気、水、土壌等の環境の自然的構成要素との相互作用によって多様な生態系が形成されている。

人類は、生物の多様性のもたらす恵沢を享受することにより生存しており、生物の多様性は人類の存続の基盤となっている。また、生物の多様性は、地域における固有の財産として地域独自の文化の多様性をも支えている。

一方、生物の多様性は、人間が行う開発等による生物種の絶滅や生態系の破壊、社会経済情勢の変化に伴う人間の活動の縮小による里山等の劣化、外来種等による生態系のかく乱等の深刻な危機に直面している。また、近年急速に進みつつある地球温暖化等の気候変動は、生物種や生態系が適応できる速度を超え、多くの生物種の絶滅を含む重大な影響を与えるおそれがあることから、地球温暖化の防止に取り組むことが生物の多様性の保全の観点からも大きな課題となっている。

国際的な視点で見ても、森林の減少や劣化、乱獲による海洋生物資源の減少など生物の多様性は大きく損なわれている。我が国の経済社会が、国際的に密接な相互依存関係の中で営まれていることにかんがみれば、生物の多様性を確保するために、我が国が国際社会において先導的な役割を担うことが重要である。

我らは、人類共通の財産である生物の多様性を確保し、そのもたらす恵沢を将来にわたり享受できるよう、次の世代に引き継いでいく責務を有する。今こそ、生物の多様性を確保するための施策を包括的に推進し、生物の多様性への影響を回避し又は最小としつつ、その恵沢を将来にわたり享受できる持続可能な社会の実現に向けた新たな一步を踏み出さなければならない。

(2) 三つの多様性

生物多様性条約では、生物多様性をすべての生物の間に違いがあることと定義し、生態系の多様性、種間（種）の多様性、種内（遺伝子）の多様性という3つのレベルでの多様性があるとしています。

生態系の多様性とは、干潟、サンゴ礁、森林、湿原、河川など、いろいろなタイプの生態系がそれぞれの地域に形成されていることです。種の多様性とは、いろいろな動物・植物や菌類、バクテリアなどが生息・生育しているということです。遺伝子の多様性とは、同じ種であっても、個体や個体群の間に遺伝子レベルでは違いがあることです。このように自然界のいろいろなレベルにおいて、それぞれに違いがあること、そして何より、それが長い進化の歴史において受け継がれた結果として、現在の生物多様性が維持されています。生物多様性の保全にあたっては、それぞれの地域で固有の生態系や生物相の違いを保全していくことが重要です。

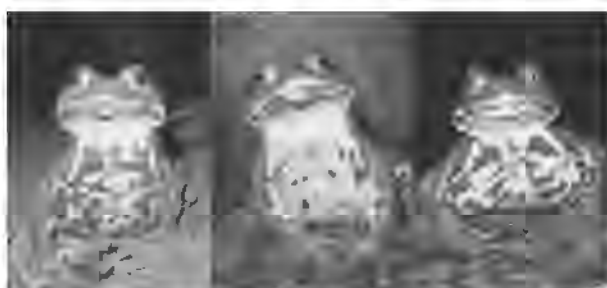
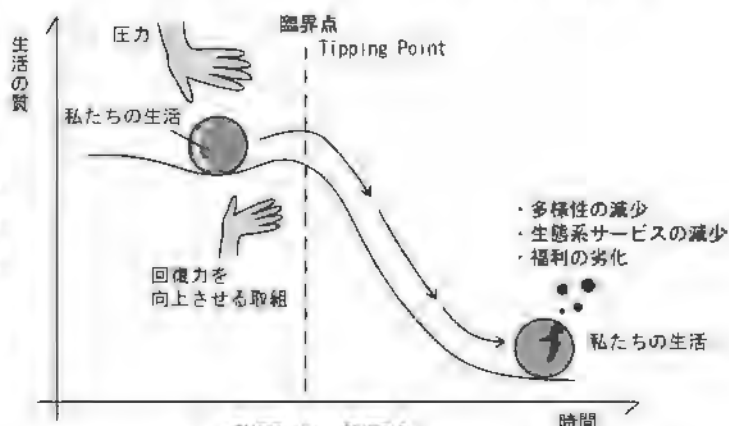


写真 遺伝子の多様性 同じ種類でも個体によって模様が変わる(ヒキガエルの例)

(3) 臨界点

生物多様性への圧力が增大すると、一部の生態系が新しい状態へ移行する危険性があり、臨界点を超えると人類の福利（人間の豊かな暮らし）に甚大な影響が生じます。臨界点がどこにあるかを正確に判断することは難しいですが、生態系がいったん新しい状態へ移行すると、これ



附図-2 臨界点

を以前の状態に戻すことは、不可能ではないとしても、非常に困難になります(出典：生物多様性条約事務局)。

世界ではさまざまな生物多様性の保全に関する取り組みが行われていますが、現在も生物多様性の損失が続いており、今後 10～20 年に取られる行動が重要とされています。

このような考えにより、生物多様性条約第 10 回締約国会議*(COP10)では、2020 年までに生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施することを短期目標とした 20 の個別目標(愛知目標*)が設定されました(愛知目標と目黒区との関係は P.74 に示します)

(4) 生物多様性の 4 つの危機

生物多様性は、現在世界的な危機に瀕しています。日本では、生物多様性の危機の原因として、次の 4 つがあげられています(生物多様性国家戦略 2012-2020 より要約)。

開発など人間活動による危機

人間による開発や乱獲などの影響によるものです。経済性や効率性を優先した農地や水路の整備、河川の直線化、干潟や湿地などの埋め立て、観賞用・商業的利用による乱獲などによって、いきものの生息・生育環境が減少・消失するなど、生物多様性に大きな影響を与えています。



自然に対する働きかけの縮小による危機

里山・里地の薪炭林や農用林などの里山林、草地などの二次草原は、以前は生活に必要なものとして人の手に加えられ、その環境に特有の多様ないきものを育ててきました。しかし、薪炭林などで、伐採による萌芽更新、落ち葉かきなど、人間が手を加えなくなったことで環境が変わり、そこにすむいきものの種類が大きく変化しています。



人間により持ち込まれたものによる危機

外来種など、人間によって他の地域から持ち込まれたいきものが、地域固有の生態系を大きく変えてしまっています。

また、人間が近代的な生活を送るために使用されている殺虫剤などの化学物質の使用も、標的とする生物以外のいきものにも影響を及ぼしているおそれがあります。いずれも、生物多様性に多大な影響を与えている要因のひとつとされています。



地球環境の変化による危機

地球温暖化など地球環境の変化による生物多様性への影響です。地球温暖化による生物季節の変化、気温上昇による降水量の変化などの気候変動、それに伴う食料の生産適地や漁場の変化などの可能性があります。地球上の多くのいきものの絶滅のリスクが高まる可能性が高いと、予測されています。



附-6 目黒区の鳥類リスト

2013年12月現在

科名	種名	区分	チェック	科名	種名	区分	チェック	科名	種名	区分	チェック
カモ	オシドリ	冬鳥	☐	フクロウ	ハイタカ	冬鳥	☐	ミソサザイ	ヒレンジャク	冬鳥	☐
	オナガガモ	冬鳥	☐		オオタカ	冬鳥	☐		ミソサザイ	稀	☐
	ヒドリガモ	冬鳥	☐		サシバ	旅鳥	☐		ムクドリ	留鳥	☐
	マガモ	冬鳥	☐		ノスリ	冬鳥	☐		コムクドリ	旅鳥	☐
	カルガモ	留鳥	☐		オオコノハズク	稀	☐		マミジロ	旅鳥	☐
	コガモ	冬鳥	☐		フクロウ	稀	☐		トラツグミ	冬鳥	☐
	ホシハジロ	冬鳥	☐		アオバズク	夏鳥	☐		クロツグミ	旅鳥	☐
	キンクロハジロ	冬鳥	☐	カワセミ	アカショウビン	稀	☐		マミチャジナイ	旅鳥	☐
カイツブリ	カイツブリ	冬鳥	☐		カワセミ	留鳥	☐	ヒタキ	シロハラ	冬鳥	☐
ハト	キジバト	留鳥	☐	キツツキ	アリスイ	稀	☐		アカハラ	冬鳥	☐
	アオバト	旅鳥	☐		コゲラ	留鳥	☐		ツグミ	冬鳥	☐
ウ	カワウ	留鳥	☐		アカゲラ	稀	☐		ノゴマ	旅鳥	☐
サギ	ヨシゴイ	稀	☐		アオゲラ	留鳥	☐		コルリ	旅鳥	☐
	ミソゴイ	旅鳥	☐	ハヤブサ	チョウゲンボウ	冬鳥	☐		ルリビタキ	冬鳥	☐
	ゴイサギ	留鳥	☐		コチョウゲンボウ	稀	☐		ジョウビタキ	冬鳥	☐
	ササゴイ	稀	☐		チゴハヤブサ	稀	☐		イソヒヨドリ	留鳥	☐
	アマサギ	稀	☐		ハヤブサ	冬鳥	☐		エソビタキ	旅鳥	☐
	アオサギ	留鳥	☐	サンショウクイ	サンショウクイ	旅鳥	☐		サメビタキ	旅鳥	☐
	ダイサギ	留鳥	☐	カササギヒタキ	サンコウチョウ	旅鳥	☐		コサメビタキ	旅鳥	☐
	チュウサギ	稀	☐	モズ	チゴモズ	稀	☐		キビタキ	旅鳥	☐
	コサギ	留鳥	☐		モズ	留鳥	☐		ムギマキ	迷鳥	☐
クイナ	クイナ	稀	☐		アカモズ	稀	☐	スズメ	オオルリ	旅鳥	☐
	ツルクイナ	迷鳥	☐	カラス	カケス	旅鳥	☐		スズメ	留鳥	☐
	オオバン	稀	☐		オナガ	留鳥	☐	セキレイ	キセキレイ	留鳥	☐
カッコウ	ホトトギス	旅鳥	☐		ハシボソガラス	留鳥	☐		ハクセキレイ	留鳥	☐
	ツツドリ	旅鳥	☐	キクイタダキ	ハシブトガラス	留鳥	☐		セグロセキレイ	留鳥	☐
	カッコウ	旅鳥	☐		キクイタダキ	冬鳥	☐		ピンズイ	冬鳥	☐
ヨタカ	ヨタカ	稀	☐	シジュウカラ	コガラ	冬鳥	☐		タヒバリ	冬鳥	☐
アマツバメ	ハリオアマツバメ	旅鳥	☐		ヤマガラ	冬鳥	☐	アトリ	アトリ	冬鳥	☐
	アマツバメ	旅鳥	☐		ヒガラ	冬鳥	☐		カワラヒワ	留鳥	☐
	ヒメアマツバメ	留鳥	☐	ヒバリ	シジュウカラ	留鳥	☐		マヒワ	冬鳥	☐
チドリ	コチドリ	稀	☐		ヒバリ	旅鳥	☐		ベニヒワ	稀	☐
シギ	ヤマシギ	旅鳥	☐		ショウドウツバメ	旅鳥	☐		ベニマシコ	稀	☐
	オオジシギ	稀	☐	ツバメ	ツバメ	夏鳥	☐		ウソ	冬鳥	☐
	タシギ	稀	☐		イワツバメ	旅鳥	☐		シメ	冬鳥	☐
	キアシシギ	旅鳥	☐	ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	☐		コイカル	迷鳥	☐
	イソシギ	留鳥	☐		ウグイス	冬鳥	☐		イカル	稀	☐
	アサギ	稀	☐		エナガ	冬鳥	☐		ホオジロ	冬鳥	☐
カモメ	ユリカモメ	冬鳥	☐	ムシクイ	メボソムシクイ	旅鳥	☐		カシラダカ	冬鳥	☐
	ウミネコ	冬鳥	☐		エソムシクイ	旅鳥	☐		ミヤマホオジロ	稀	☐
	セグロカモメ	冬鳥	☐		センダイムシクイ	旅鳥	☐		ノジコ	稀	☐
	コアシサシ	夏鳥	☐	メジロ	メジロ	留鳥	☐		アオジ	冬鳥	☐
	アジサシ	稀	☐		オオヨシキリ	旅鳥	☐		クロジ	冬鳥	☐
タカ	トビ	留鳥	☐		コヨシキリ	旅鳥	☐				☐
	チュウヒ	稀	☐	セッカ	セッカ	旅鳥	☐				☐
	ツミ	留鳥	☐	レンジャク	キレンジャク	冬鳥	☐				☐

外来種 コジュケイ、コブハクチョウ、チョウショウバト、コザクラインコ、オオキボウシインコ、オキナインコ、セネガルホンセイインコ、ワカケホンセイインコ、オカメインコ、セキセイインコ、テンニンチョウ、ショウジョウコウカンチョウ、コウカンチョウ、ホウコウチョウ、ガビチョウ、ソウシチョウ、ブンチョウ、ズグロムクドリ、ハッカチョウ、ベニスズメ、ギンバラ、シコンチョウ、ルリガシラセイキチョウ、キンランチョウ、キュウカンチョウ

飼育 ウズラ、キジ、コウライキジ、カササギ

家畜 キンケイ、アヒル ガチョウ(シナガチョウ)、ニワトリ、ジュズカケバト、ドバト、カナリア、ジュウシマツ

留鳥： ある地域で一年中見られる鳥

漂鳥： 日本国内を季節によって移動する鳥。日本全体としてみれば留鳥ともいえる

夏鳥： 春に南の地域から渡って来て繁殖し、秋には南の地域に渡去する鳥

旅鳥： 春秋の渡りの途中に見られるもの。 迷鳥： 本来の分布域から外れて渡来した鳥

冬鳥： 春から夏にかけて北の地域で繁殖し、秋に日本に渡来して越冬し、春には北に帰る鳥

稀： 目黒区で観察例が極めて少なく、冬鳥が旅鳥かなどの区分けができないもの

家畜： ニワトリやカナリアなど、品種改良等で人為的に作られた種類が野外で見られたもの

外来種： 外国産の野鳥で、愛玩用などとして輸入され、逃げたり放されるなどとして野外で見られたもの

飼育： 日本の野鳥だが、飼育されていたものが、逃げたり放されるなどとして野外で見られたもの

附-7 生物名索引

目次ページ 表紙 1~4

分類	生物名	標準和名*・学名	ページ
哺乳類	アズマモグラ	<i>Mogera imaizumii</i>	目4,24,16,38,39,60,80,82
	アブラコウモリ	<i>Pipistrellus abramus</i>	16,80
	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	10,72
	イルカ(類)	総称	表1,10,29,72
	シカ(ニホンジカ)	<i>Cervus nippon</i>	10,72
	シロナガスクジラ	<i>Balaenoptera musculus</i>	表1,29
	タヌキ	ホンダヌキ(亜種) <i>Nyctereutes rocyonoides viverrinus</i>	目4,16,32,39,80,82
	ラッコ	<i>Enhydra lutris</i>	表1,29
	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	23,32,80
	アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	23
鳥類	アオバスク	<i>Ninox scutulata</i>	32,33,38,60,82
	イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	60,65,67
	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	4,7,18,19,23,38,39,66,80,82
	エソビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	29
	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	目4,16,32,39,58,60,67,80,82
	オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>	表1,29
	オオバン	<i>Fulica atra</i>	67
	オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	26,29
	オカメインコ	<i>Nymphicus hollandicus</i>	19
	オナガ	<i>Cyanopica cyanus</i>	16,18,23,24,32,45,56,66,80
	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	23,39,60
	カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	24,38,80
	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	32,
	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	16,23,32,39,60,67,72,80,82
	カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	16,21,24
	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	10,11
	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	16,24,21,26,80
	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	38,59
	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	表1,23,29,30,31,32,33,34,39
	キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>	23,39
	コアシサシ	<i>Sterna albifrons</i>	39,60
	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	目4,16,18,23,24,38,56,72,80
	コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	16,23,39,67,80
	コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	29
	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracica</i>	11
	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	67
	コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>	19
	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	29,58

シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	目4,7,16,18,23,24,26,32,38,40,44,53,56,65,80
ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureoreus</i>	21,23,45
スズメ	<i>Passer montanus</i>	7,16,18,21,24,80
セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	60
センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	26
ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	23,67
ダイシャクシギ	<i>Numerius arquata</i>	表1
チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	32,39,60
ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	表1,21,23
ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	表1,4,7,16,18,24,26,29,32,35,39,80
ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	60
トキ	<i>Nipponia nippon</i>	表1,29
ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	60
ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	21,32
ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	23,24,80
ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	24
ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	67
ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	目4,16,21,23,24,45,66,80
ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>	23
ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	11,72
マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	59
マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>	29
ミソゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	60
ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	16,21,23,24,45,80
メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	4,21,23,24,80
メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	26
モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	目4,11,16,21,23,38,60,82
ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	19,82
ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	目4,16,21,39,60
ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	表1,18,29,32,65,67
ワカケホンセイインコ	(ホンセイインコ亜種) <i>Psittacula krameri manillensis</i>	18,24,80
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	表1,29
アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>	目4,11,39,60,80
カナヘビ	ニホンカナヘビ <i>Takydromus tachydromoides</i>	38,60,80
クサガメ	<i>Chinemys reevesii</i>	80
トカゲ	ニホントカゲ <i>Plestiodon japonicus</i>	16,18,32,38,47,60,63,80,82
ハナガメ	<i>Ocadia sinensis</i>	19
ヒバカリ	<i>Amphispiza vibakari</i>	19,60
ミシシビアカミミガメ	(アカミミガメ亜種) <i>Trachemys scripta elegans</i>	18
ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>	11

爬虫類

両生類	ヤモリ	ニホンヤモリ <i>Gekko japonicus</i>	7,18, 32, 38,39,60, 80,82
	アマガエル	ニホンアマガエル <i>Hyla japonica</i>	7,16,38, 39,57,60, 80,82
	ヒキガエル	アズマヒキガエル(亜種) <i>Bufo japonicus formosus</i>	7,18,32, 38,58,60, 65,80,82
魚類	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	4,15,30, 31,32,33, 39,67,80
	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	32,67
	ギンブナ	<i>Carassius auratus langsdorfii</i>	11
	クチボソ	モツゴ <i>Pseudorasbora parva</i>	62
	クロダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>	10,72
	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	10,11
	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>	11
	ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>	67
	ビリンゴ	<i>Gymnogobius castaneus</i>	67
	ボラ	<i>Mugil cephalus</i>	15,80
	マルタ	<i>Tribolodon taczanowskii</i>	67
	メダカ	<i>Oryzias latipes</i>	7,16,38, 62, 63,80
	ヨシノボリ	(<i>Rhinogobius</i> sp.)	63
	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	11
	オカダンゴムシ	<i>Armadillidium vulgare</i>	16,80
	クロベンケイガニ	<i>Chiromantes dehaani</i>	67
	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>	目4,
	スジエビ	<i>Palaeomon paucidens</i>	67
	テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>	60,63,67
クモ類	モクズガニ	<i>Eriocheir japonicus</i>	67, 80
	アオオビハエトリ	<i>Siler vittatus</i>	16
	ハナグモ	<i>Misumenops tricuspidatus</i>	16
	イオウイロハシリグモ	<i>Dolomedes sulfueus</i>	16
	キシノウエトタテグモ	<i>Latouchia typica</i>	38,60,82
	キハダカニグモ	<i>Bassaniana decorata</i>	16
	コアシダカグモ	<i>Heteropoda forcipata</i>	60
	コガネグモ	<i>Argiope amoena</i>	60
	サツマノミダマシ	<i>Neoscona scyllioides</i>	16
	ジョロウグモ	<i>Nephila clavata</i>	16,18,39, 80
	ナガコガネグモ	<i>Argiope bruennichi</i>	16
	ヤサガタアシナガグモ	<i>Tetragnatha maxillosa</i>	16
昆虫・チョウ・ガ類	アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon</i>	18,38,45, 66,67,80
	アカシジミ	<i>Japonica lutea</i>	39, 82
	アカボシゴマダラ	<i>Hestina assimilis</i>	18,23,45, 66
	アサギマダラ	<i>Parantica sita</i>	表1,29,67
	イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata</i>	66
	ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta</i>	45,67
	ウラナシシジミ	<i>Lampides boeticus</i>	45,67
	オオミズアオ	<i>Actias artemis</i>	60
	カラスアゲハ	<i>Papilio dehaanii</i>	67
	キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>	45,80

昆虫・チョウ・ガ類	キチョウ	キタキチョウ <i>Eurema mandarina</i>	目4,32,38, 45,66,67, 80
	クスオビホソガ	<i>Gibbovalva quadrifasciata</i>	19
	クロアゲハ	<i>Papilio protenor</i>	26,38,45, 66,80
	ゴマダラチョウ	<i>Hestina japonica</i>	45,62,66, 67
	コミスジ	<i>Neptis sappho</i>	66
	クロマダラソテツシジミ	<i>Chilades pandava</i>	19
	サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitchii</i>	67
	ジャコウアゲハ	<i>Byasa alcinous</i>	66
	セミヤドリガ	<i>Epipomponia nawai</i>	19
	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>	23
	ツバメシジミ	<i>Everes argiades</i>	45
	ツマキチョウ	<i>Anthocharis scolymus</i>	38,45,67
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius</i>	39,45
	ナガサキアゲハ	<i>Papilio memnon</i>	18,23,39, 45,66,73
	ナミアゲハ(アゲハ)	<i>Papilio xuthus</i>	39,45,65, 66,80
	ヒメツバメアオシヤク	<i>Maxates protrusa</i>	19
	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas</i>	38,45
	ホソオチョウ	<i>Sericinus montela</i>	19
	ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica</i>	目4
昆虫・甲虫類	ミズイロオナガシジミ	<i>Antigius attilia</i>	58
	ムラサキツバメ	<i>Narathura bazalus</i>	38,67,82
	モンキチョウ	<i>Colias erate</i>	80
	モンシロチョウ	<i>Pieris(Artogeia) rapae</i>	66,80
	ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha</i>	10,45,66
	ルリタテハ	<i>Kaniska canace</i>	45
	アオオサムシ	<i>Ohomopterius insulicola</i>	目4, 19
	アカガネサルハムシ	<i>Acrothinium gaschkevitchii</i>	19
	ウスバカミキリ	<i>Megopis sinica sinica</i>	60
	ウバタマムシ	<i>Chalcophora japonica</i>	19,60
	カナブン	<i>Rhomborrhina japonica</i>	45, 62,80
	カナブン類	—	—
	カブトムシ	<i>Trypoxylus dichotomus</i>	目4,11,32, 38,39,40, 62,80,82
	オオクロコガネ	<i>Holotrichia parallela</i>	19
	キボシカミキリ	<i>Psacothoe hilaris</i>	80
	クロホシクチキムシ	<i>Pseudocistela haagi</i>	19
	ゲンゴロウ類	コシマゲンゴロウ <i>Hydaticus grammicus</i> ハイイロゲンゴロウ <i>Eretes sticticus</i>	11,30,31, 38,82
	コアトワアオゴミムシ	<i>Chlaenius hamifer</i>	19,60
	コクワガタ(クワガタ類)	<i>Dorcus rectus</i> —	目4,11,18, 32,39,45 57, 62,80
昆虫・チョウ・ガ類	ゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora malasiaca</i>	11
	コルリアトキリゴミムシ	<i>Lebia virides</i>	19
	シロコブソウムシ	<i>Episomus turritus</i>	19
	シロスジカミキリ	<i>Batocera lineolata</i>	11
	シロテンハナムグリ	<i>Protaetia orientalis</i>	45
	センチコガネ	<i>Geotrupes laevistriatus</i>	目4

昆虫甲虫類	タマムシ	ヤマトタマムシ(亜種) <i>Chrysochroa fulgidissima fulgidissima</i>	目4,11,19, 32,39,60, 82
	トウキョウヒメハシ ミョウ	(亜種) <i>Cicindela kaleea yedoensis</i>	38,82
	トラフカミキリ	<i>Xylotrechus chinensis</i>	19,60
	ドウガネフイブイ	<i>Anomala cuprea</i>	11,19
	ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>	80
	ノコギリクワガタ	<i>Prosopocoilus inclinatus</i>	11,60
	ノハラボタル	<i>Pyropysa sp.</i>	19
	ヒゲコメツキ	<i>Pectocera fortunei</i>	11
	ヒラタクワガタ	<i>Dorcus titanus</i>	19,
	ハイケボタル	<i>Luciola lateralis</i>	16,39,80
	ベニバハナカミキリ	<i>Paranaspia anaspoides</i>	19
	ミヤマカミキリ	<i>Massicus raddei</i>	11
	ユミアシゴミムシダ マシ	<i>Promethis valgipes</i>	19
	ラミーカミキリ	<i>Paraglenea fortunei</i>	19
	イナゴモドキ	<i>Mecostethus alliaceus</i>	19
昆虫(バッタ類)	ウスイロササキリ	<i>Conocephalus chinensis</i>	19
	ウマオイ類	ハタケノウマオイ <i>Hexacentrus unicolor</i> ハヤシノウマオイ <i>Hexacentrus japonicus</i>	39
	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i>	目4,18,19, 38,80
	クツワムシ (ガチャガチャ)	<i>Mecopoda nipponensis</i>	11
	コバネイナゴ	<i>Oxya yezoensis</i>	16,57
	ショウリョウバッタ (キチキチバッタ)	<i>Acrida cinerea</i>	38,80
	ショウリョウバッタ モドキ	<i>Gonista bicolor</i>	60
	スズムシ	<i>Homoeogryllus japonicus</i>	11
	ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i>	19
	トノサマバッタ	<i>Locusta migratoria</i>	38,58,63
	ヒゲシロスズ	<i>Pteronemobius flavoantennalis</i>	19
昆虫(トンボ類)	アオモンイトトンボ	<i>Ischnura senegalensis</i>	19
	アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>	16,80
	ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>	表1,29
	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	16, 30,32, 39,60,80
	キイトトンボ	<i>Ceragrion melanurum</i>	38,60,82
	ギンヤンマ	<i>Anax parthenope</i>	39,80
	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum</i>	18, 32,65, 80
	ハグロトンボ (オハグロトンボ)	<i>Calopteryx atrata</i>	11
	ヒメアカネ	<i>Sympetrum parvulum</i>	19,21
	ホソミオツネントン ボ	<i>Indolestes peregrinus</i>	60
	モノサシトンボ	<i>Copera annulata</i>	38,60
その他の昆虫類	アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>	23,24,80
	アヤトビムシ	—	目4
	エドクロツヤチビカ スミカメ	<i>Sejanus komabanus</i>	19
	オオカマキリ	<i>Tenodera aridifolia</i>	38,39,80
	カネタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i>	18
	カマドウマ	<i>Diestrammena apicalis</i>	26
	ケラ	<i>Gryllotalpa fossor</i>	16
	シママルトビムシ	<i>Ptenothrix denticulata</i>	目4

その他の動物	ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>	80
	トガリヨコバイ	<i>Doratulina producta</i>	19
	ドロバチ(類)	総称	47
	ニイニイゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i>	目4,80
	ニホンミツバチ	<i>Apis cerana japonica</i>	39,80,82
	ハキリバチ(類)	総称	47
	ヒグラシ (カナカナゼミ)	<i>Tanna japonensis</i>	11,39,60, 80
	フタモンホシカメム シ	<i>Pyrrhocoris sibiricus</i>	19
	ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i>	23,24,80
植物(樹木類)	キセルガイ	ナミギセル <i>Phaedusa japonica</i>	目4
	ナミコムカデ	<i>Hanseniella caldiaria</i>	目4
	ミスジマイマイ	<i>Euhadra peliomphala</i>	80
	ムネトゲツチカニム シ	<i>Tyrannochthonius japonicus</i>	目4
	(ミミズ類)	総称	目4,16
	ヤマトシジミ(貝)	<i>Corbicula japonica</i>	10,11
	アカマツ	<i>Pinus densiflora</i>	目4
	イイギリ	<i>Idesia polycarpa</i>	45
	イチジク	<i>Ficus carica</i>	11,45
	イチヨウ	<i>Ginkgo biloba</i>	17,19,62, 80
	イヌツゲ	<i>Ilex crenata</i>	45
	イロハモミジ	<i>Acer palmatum</i>	80
	ウメ	<i>Prunus mume</i>	19,45,80
	ウメモドキ	<i>Ilex serrata</i>	45
	エノキ	<i>Celtis sinensis</i>	45,67
植物(樹木類)	カキノキ	<i>Diospyros kaki</i>	45
	カシ類 (例示) →シラカシ	アカガシ <i>Quercus acuta</i> アラカシ <i>Quercus glauca</i>	57,67,82
	ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>	45
	キンモクセイ	モクセイの変種 <i>Osmanthus fragrans var. aurantiacus</i>	80
	クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	45
	クスノキ	<i>Cinnamomum camphora</i>	45,58,67
	クヌギ	<i>Quercus acutissima</i>	15,57,58, 59,80,82
	クロガネモチ	<i>Ilex rotunda</i>	45
	ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>	17,58, 63, 66,80,82
	コクサギ	<i>Orixa japonica</i>	67
	コナラ	<i>Quercus serrata</i>	15,58,80
	サクラ さくら	園芸品種を含むサクラ類	6,7,17,23, 37,43,48, 50,59,62
	シイノキ シイ	スダジイ <i>Castanopsis sieboldii</i>	17,59
	シラカシ	<i>Quercus myrsinaefolia</i>	目4,11,45, 59,63
	シロダモ	<i>Neolitsea sericea</i>	目4
	シキミ	<i>Illicium anisatum</i>	目4
	ズミ	<i>Malus toringo</i>	45
	ソメイヨシノ	園芸品種 <i>Prunus X yedoensis</i>	7,19,80
植物(樹木類)	ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i>	45
	トウカエデ	<i>Acer buergerianum</i>	17
	ニシキギ	<i>Euonymus alatus</i>	45
	ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i>	45
	ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i>	45

ハギ	ミヤギノハギ <i>Lespedeza thunbergii</i>	6,16,18, 45,67,80
ハナミズキ	アメリカヤマボウシ <i>Benthamidia florida</i>	17
ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i>	45
ヒマラヤスギ	<i>Cedrus deodara</i>	17
ブドウ	栽培品種	20,39,50, 63,
フジ	<i>Wisteria floribunda</i>	45
プラタナス	総称	63
ホオノキ	<i>Magnolia obovata</i>	36
ヤマザクラ	<i>Prunus jamasakura</i>	45
マサキ	<i>Euonymus japonicus</i>	45
マユミ	<i>Euonymus sieboldianus</i>	45
マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>	45
ミカン類	総称	45
ミズキ	<i>Cornus controversa</i>	29,45
ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>	26,45,82
ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i>	45
モチノキ	<i>Ilex integra</i>	45
モッコク	<i>Ternstroemia gymnanthera</i>	45
モミジバフウ	<i>Liquidambar styraciflua</i>	17
ヤブコウジ	<i>Ardisia japonica</i>	45
アイアシ	<i>Phacelurus latifolius</i>	67
アブノメ	<i>Dopatrium junceum</i>	21,60
ウラシマソウ	<i>Arisaema urashima</i>	26
エノコログサ	<i>Setaria viridis</i>	目4,63
オオハンゴンソウ	<i>Rudbeckia laciniata</i>	45
オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>	45
オモダカ	<i>Sagittaria trifolia</i>	16
カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>	45
ガマ	<i>Typha latifolia</i>	39,63
カラスウリ	<i>Trichosanthes cucumeroides</i>	16,38,80
カワヂシャ	<i>Veronica undulata</i>	57, 60, 63
カンガレイ	<i>Scirpus triangulatus</i>	38
カントウタンポポ	<i>Taraxacum platycarpum</i>	18,19,35, 39,58,80
キジョラン	<i>Marsdenia tomentosa</i>	67
キツネノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i>	目4
ギンラン	<i>Cephalanthera erecta</i>	39,60,82
クズ	<i>Pueraria lobata</i>	67
ケキツネノボタン	<i>Ranunculus cantoniensis</i>	16
サツマイモ	蔬菜、品種他	7,49,72
シオクグ	<i>Carex scabrifolia Steud.</i>	67
シュウニヒトエ	<i>Ajuga nipponensis</i>	58
シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>	45
シロバナタンポポ	<i>Taraxacum albidum</i>	19,63
スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	16
スイバ	<i>Rumex acetosa</i>	45
セキショウ	<i>Acorus gramineus</i>	16
スギナ(ツクシ)	ツクシはスギナの胞子茎 <i>Equisetum arvense</i>	7,18,80
ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>	18,58,80
セリ	<i>Oenanthe javanica</i>	16, 57
セリバヒエンソウ	<i>Delphinium anthriscifolium</i>	19
ソラマメ	<i>Vicia faba</i>	45
タシロラン	<i>Epipogium roseum</i>	19,82
タチツボスミレ	<i>Viola grypoceras</i>	18,19,38, 39,59,62
チガヤ	<i>Imperata cylindrica</i>	39,58
ツユクサ	<i>Commelina communis</i>	4,80

ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>	80
ネジバナ	<i>Spiranthes sinensis</i>	80
ハナダイコン	<i>Orychophragmus violaceus</i>	26,45,67
ヒガンバナ	<i>Lycoris radiata</i>	80
ヒメウス	<i>Semiaquilegia adoxoides</i>	19
フジウツギ	<i>Buddleja japonica</i>	45
フデリンドウ	<i>Gentiana zollingeri</i>	59
ホウチャクソウ	<i>Disporum sessile</i>	58
ホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i>	38,59,80
ボタンウキクサ (ウォーターレタス)	<i>Pistia stratiotes</i>	45
ホンモンシスゲ	<i>Carex pisiformis</i>	60
マコモ	<i>Zizania latifolia</i>	11
マヤラン	<i>Cymbidium nipponicum</i>	39,82
マルバスマレ	<i>Viola keiskei</i>	19
ミクリ	<i>Sparganium erectum</i>	39,82
ミソソバ	<i>Polygonum thunbergii</i>	16
ムラサキケマン	<i>Corydalis incisa</i>	26
ヤブカンソウ	<i>Hemerocallis fulva</i>	38
ヨモギ	<i>Artemisia princeps</i>	80
ラン類(例示) →タシロラン →ギンラン	シュラン <i>Cymbidium goeringii</i> マヤラン <i>Cymbidium macrorhizon</i>	39,82
ワニグチソウ	<i>Polygonatum involucreatum</i>	26
ウグイスタケ (カワリハツ)	<i>Russula cyanoxantha</i>	19
オニタケ	<i>Echinoderma asperum</i>	目4
オニフスベ	<i>Calvatia nipponica</i>	目4,39,82
クモタケ	<i>Nomuraea atypicola</i>	目4
コフキサルノコシカケ	<i>Ganoderma applanatum</i>	目4
サルノコシカケ類	総称	80
ツチグリ	<i>Astraeus hygrometricus</i>	目4,60
ツルタケ	<i>Amanita vaginata</i>	目4
テングタケ	<i>Amanita pantherina</i>	19
トキロヒラタケ	<i>Pleurotus djamor</i>	19
ホウネンタケ	<i>Abundisporus pubertatis</i>	19
ミヤマシメジ	<i>Hydropus nigrita</i>	19

付属資料 4、6 の種は全部を掲載していません
表示のページ以外にも掲載されている場合があります

附一8 未来のすがた図(P.32)に描かれている動物

- 鳥 キビタキ、オオタカ、ツバメ、アオバズク、チョウ
ゲンボウ、カワセミ、オナガ、シジュウカラ、ユリ
カモメ、アオサギ、カワウ、ハクセキレイなど
- 魚 ウナギ、アユ
- 動物 ヤモリ、トカゲ、ヒキガエル、タヌキ等
- 昆虫 タマムシ、ミツバチ(養蜂)、クワガタ類、カブトム
シ、シオカラトンボ、オニヤンマ、キチョウ、バッ
タ類等

附－9 用語説明

あ行

愛知目標 (2,3,70,71,74,85)

2010(平成 22)年に愛知県名古屋市で開催された、生物多様性条約第 10 回締結国会議(COP10)において採択された、生物多様性に関する新たな世界目標となる「戦略計画 2011-2020」。2050 年までに「自然と共生する世界」の実現を目指し、2020 年までに生物多様性の損失を止めるための効果的かつ緊急の行動を実施するため、5 つの戦略目標のもと、2015 年あるいは 2020 年を目標年とする、具体的な数値目標を盛り込んだ計 20 の個別目標が掲げられている

いきもの →P.1

いきもの池・原っぱクラブ (78)

中目黒公園を活動の拠点とし、ピオトープ池や原っぱの保全活動を行っている公園活動登録団体

いきもの气象台・いきもの气象台観察ノート (49,51,54)

区の事業。いきもの情報の募集・発信を行う。自然環境の変化を区民参加調査や専門調査、文献等で調べ、集計結果を『いきもの住民台帳』『いきもの气象台観察ノート』など『めぐろグリーンデータブック』としてまとめ、区立図書館や区のホームページなどで公開している。いきもの調査の参加者は、「自然通信員」として登録している

いきもの住民会議 (37,54,71)

区の事業。自然通信員、公園活動登録団体等の研修や情報交換、交流の場として公園や大学等の施設で開催。地域のいきもの(→いきもの住民台帳)も参加するという意味からこの名

いきもの住民台帳 (18,43)

区で観察された動植物の目録(インベントリ)。環境学習での利用を考慮し、この名称。区実施の自然環境調査・緑の実態調査や、他の機関が実施する調査(環境アセスメント調査、企業の CSR 活動による調査、大学等が実施する調査)等の専門調査のほか、区民参加型調査(→区民による身近な生物調査)結果等を一元的にパソコンに集約し、公表している。1984(昭和 59)年に「目黒区産動植物目録」が発行され、現在は、2010(平成 22)年暫定版。生物多様性確保のための基礎的な資料としている

いきもの発見隊 (48,50,53,62,78)

区の事業。イベント型住民参加調査。親子などの参加者が身近ないきものを探して記録し、自然の大切さや、街に自然を呼び戻す工夫を考える。目黒川の魚介類はこの調査により経年変化をとらえている

入会 いりあい (54)

特定地域の住民が草・薪炭材などを採取するために一定の範囲の森林・草地などを共同利用・管理すること

インタープリター (54)

自然観察、自然体験などの活動を通して、自然を保護する心を育て、自然にやさしい生活の実践を促すため、自然が発する様々な言葉を人間の言葉に翻訳して伝える人をいう。一般的には自然物だけでなく、地域の文化や歴史などを含めた対象の背後に潜む意味や関係性を読み解き、伝える活動を行う人を総称している

ウグイスの初音 はつね (7,19,23,28)
春になって初めてウグイスがさえずること

エコ園芸 →P.51

エコスクール (21,44,51)
環境を考慮した学校施設(めぐろ学校教育プラン)

エコスタック (43,47,57,62)
落ち葉や枯れ枝、石等を林床に置き、小動物の越冬や隠れ場所などの多孔質空間により小動物のすみかをつくること。バイオスタックも同様の用語

エコトーン (16,47)
樹林と草地の境界や陸域と水域の境界(水際)等、環境が異なる部分の移行帯。それぞれの環境や両方の環境を必要とするいきものが集中する部分で、生物多様性を確保する上で重要な環境である

エコラベル (52,70)
環境ラベルとも言われる。環境ラベルは製品の環境側面に関する情報を提供するものであり、1)「エコマーク」など第三者が一定の基準に基づいて環境保全に資する製品を認定するもの、2)事業者が自らの製品の環境情報を自己主張するもの、3)ライフサイクルアセスメントを基礎に製品の環境情報を定量的に表示するもの等がある(環境白書)

エコロジカルネットワーク
(28,35,54,55,56,57,65,69)→P.55

エコロジカルネットワークの構成要素 (55)

「めぐろの森(中核地区)」、「まちの樹林(拠点地区)」、「いきものの道(回廊地区)」、「いきものの庭(緩衝地区)」。()内は、都市緑地法運用指針(2012(平成 24)年度国土交通省資料)による

江戸の名所 (53)

「名所江戸百景(歌川広重)」には、目黒千代池、新富士、元不二、爺々が茶屋、太鼓(たいこ)橋、夕日の岡など、「江戸名所図会」には、夕日岡・行人坂、富士見茶屋、太鼓橋、目黒鮎、大鳥明神社、窟(いわや)弁天、蟠龍(ばんりゅう)寺、蛸(たこ)薬師などが紹介されている

落ち葉シク おちばんく (43,46,62,63)

区の事業。造語。公園や小学校、保存樹林等に設置している落ち葉だめ。落ち葉を預けて土(腐葉土)を引き出すの意。「落ち葉をごみにしない」という考え方で、1999(平成 11)年の「20 世紀の生きものたち記録委員会」(区自然環境基礎調査で設置)で示された。学習活動として落ち葉等を腐葉土にするための切り返し作業を行う中で、ミミズやダンゴムシ、カブトムシの幼虫といった、土をつくるいきものたちとの出会いがある。できた腐葉土は、花壇や畑などで利用

か行

階層構造 (38,39,46)

森林は様々な高さの植物が集まって成立しており、その垂直的な配列をいう。高木層、亜高木層、低木層、草本層、コケ層が代表的な階層

外来生物・外来種 特定外来生物

(18,23,45,46,51,74,79,83,84,85,86)

人間によって、本来見られる地域外に持ち込まれたいきもの。荷物への付着や、靴底について種が運ばれるなど意図的でないものもある。海外起源の外来種(国外外来種)ばかりでなく、日本の他の地域から持ち込まれたものを国内外来種という。外来種の中でも、在来種の絶滅につながるおそれがあるなど、生態系や人間の生活に大きな影響を及ぼすようなものを、侵略的外来種という。

海外起源の外来種であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から外来生物法(特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律)で指定されているものを「特定外来生物」という。生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれる。区内で記録されている特定外来生物は、オオ

キンケイギク、オオハングンソウ(植物)、ソウシチョウ(鳥類)、カミツキガメ(爬虫類)、ウシガエル(両生類)、カダヤシ、オオクチバス(ブラックバス)、ブルーギル(魚類)の計 8 種(2009(平成 21)年 3 月までの記録)

外来生物の取り扱い (51)

外来生物被害予防三原則として、私たち一人一人のとるべき姿勢を表した環境省が作成したスローガン。魚類や哺乳類などの動物ばかりではなく、昆虫や植物なども対象である

1. 入れない ～悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に入れない
2. 捨てない ～飼っている外来生物を野外に捨てない
3. 拡げない ～野外にすでにいる外来生物は他地域に拡げない

崖線 がいせん (8,33,56,57,58,59,64)

河川や海の浸食作用でできた崖地の連なりのこと

環境と開発に関する国際連合会議(地球サミット) (3)

国連環境開発会議。1972(昭和 47)年 6 月にストックホルムで開催された国連人間環境会議の 20 周年を機に、1992(平成 4)年 6 月にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された首脳レベルでの国際会議。地球サミットともいう

環境ナビゲーター(環境推進員) (53,54)

区の事業。地域や家庭から積極的に環境活動を進めていくことのできる人材を育成する講座の修了者。講座は講義に加え、散策やワークショップの実施など、実践面にも重点を置いた内容となっている。企画・運営などに携わる機会があり、環境に関するさまざまな講座の案内や情報が提供される

甘藷祭 かんしょまつり (7)

サツマイモの普及に努め、栽培奨励を幕府の政策に乗せた甘藷先生として有名な青木昆陽(1698～1769(元禄 11～明和 6)年)の遺徳をしのんで例年 10 月 28 日に目黒不動瀧泉寺で開催されている。寺の裏手に墓がある(区 HP)

気候変動枠組条約 (3)

地球温暖化対策に関する取り組みを国際的に協調して行っていくために 1992(平成 4)年に採択され、1994(平成 6)年に発効した。気候系に対して危険な人為的影響を及ぼすこととならない水準において、大気中の温室効果ガス濃度を安定化することをその究極的

な目的とし、締約国に温室効果ガスの排出・吸収目録の作成、地球温暖化対策のための国家計画の策定とそ
の実施等の各種の義務を課している(環境白書)

キッチンガーデン (20,62)

菜園。野菜やハーブ、果樹など食べられる植物を主
体に育てる花壇。エディブル・ガーデンともいう

旧前田家本邸 (6,50)

旧加賀百万石前田家の第16代当主前田利為(としな
り)の本邸として1929(昭和4)年に欧州建築の粋を集
めて建築された建物など。駒場公園。2013(平成25)
年度に、国の重要文化財に指定された

吸蜜植物 きゅうみつしょくぶつ

(20,39,44,62,65,82)

チョウや野鳥などが蜜を吸うために訪れる植物

区民による身近な生物調査 (4,18,19,38,52)

区の事業。区民参加による身近な自然調査。自己調
査型には、ウグイス初音調査、シジュウカラ巣箱モニ
ター、身近ないきもの(指標種)調査等があり、イベント
型には、駒場野自然クラブ、いきもの発見隊、小学校
ビオトープ調査等がある

グリーンクラブ (20,25,37,49,65)

区の事業。区が提供した花苗等を住民が公園や道路
等の一部に設けた花壇に植え付け、維持管理を行う住
民ボランティア団体

ケルネル田んぼ (47,57,62)

駒場農学校時代の試験田で、駒場野公園に残されて
いる田んぼ。1881(明治14)年ドイツ人ケルネルが、
駒場農学校の教師としてドイツより着任以来、後身の
東京農林学校、東京帝国大学農科大学を通じて帰国す
るまで、近代日本における農学の基礎づくりに大きな
影響を与え、とくに水田土壌の研究とイネ作肥料の研
究に多くの業績を残した。農学校での近代農業の普及
には、群馬県前橋市富士見町出身の篤農家船津伝次平
も大きく貢献している

原体験 (33,36,50,62,73)

記憶の底にいつまでも残る幼い頃の体験で、大人に
なってからも影響を与え続けると言われている体験

公園活動登録団体 (20,25,42,53,54,58,61)

公園の清掃・花壇管理等の維持管理活動や、地域住
民を対象としたイベント企画運営活動を行うボランテ

ィア活動団体。「住民参加による公園活性化のための要
綱」(2001(平成13)年2月要綱制定)により区が登録
し、区は一定の支援を行う

こども動物広場 (49,70)

区の事業。碑文谷公園にあり、日頃は動物と接する
機会の少ない都会のこどもたちが、ポニーや小動物に
ふれあうことのできる施設

駒場野自然クラブ (16,20,25,48,49,50)

区の事業。駒場野公園を活動の拠点とし、自然、雑
木林を守る活動を区民参加型で行う。1986(昭和61)
年から実施

駒場野ホテルの会 (78)

駒場野公園を活動の拠点とし、水辺環境の改善、雑
木林の管理等を行っている公園活動登録団体(区HP)

こまばりサイクルの会 (20)

駒場野公園を活動の拠点とし、生ごみ堆肥づくりや
公園内の土壌改良、キッチンガーデンの管理等を行っ
ている公園活動登録団体

さ行

さーくる・ガーデン・クラブ(C・G・C) (51,77)

中目黒公園を拠点に花壇管理や講習会などのイベン
トを行っている公園活動登録団体。種から花を育て、
枯れた苗や枝葉を土に戻す循環型の園芸(→P.51)を
実践している

在来種 ざいらいしゅ

(20,23,33,43,44,46,59,63,65,68,83)

ある地域に生息・生育している自然分布の動植物の
種。亜種等も含む。区では、1982~1985年に行っ
た植生調査(目黒区産動植物目録:1984(昭和59)年:目
黒区)で、自生とされたものを設定

さえずり (30,49)

鳥類で、主にオスが繁殖期に出す美しい声のことで、
種によって異なる。さえずりの意味として、ひとつに
はメスへの求愛、また、自分の存在を他のオスに知ら
せる「なわばり宣言」が挙げられる(日本野鳥の会HP)

坂道ウォーキング (50)

区の事業。坂の多い地形を利用し、文化や観光だけ
でなく、健康づくりを提案したもの。33箇所の坂を網
羅したウォーキングマップが販売されている

サクラ基金 (43)

区の事業。区が管理する桜を守るため区民や事業者から寄付を募り、桜の保護・植替え・植栽等を行うための基金。2014(平成26)年創設

里山・里地 さとやま さとち

(15,20,25,33,37,40,48,50,57,58,62,71,78,84,85)

人里近くにあつて人々の生活と結びついた山・森林(雑木林等)・里。「里山イニシアチブ」は、COP10を機に持続可能な自然の利用方法として、日本が世界に提唱しているもの。かつての里山は、薪炭林などとして長期利用をするため、人の手が適度に入ることによって、生態系も豊かに保たれていたとして、人と自然の関係のモデルにしている

自然観察舎 (50,57,62,70)

駒場野公園にある全区施設。自然体験や環境学習の啓発、雑木林等の保全等のボランティア活動の拠点

自然通信員 (11,18,37,49,54)

区の事業。身近な自然の観察記録を区に報告をするボランティア。記録は生物季節や経年変化の把握などに活かされている→いきもの気象台

社寺林 (17,58,59,61)

神社や寺にあるまとまりのある大きな樹林。神社の樹林は鎮守の森とも呼ばれることがある

自由が丘森林化計画 (20)

自由が丘商店街が取り組む街にみどりを増やす活動。“上空から東京を眺めたら、緑いっぱいの一画が！近づいてみるとそこは自由が丘だった”をコンセプトにしている

住区 住区住民会議 (17,42,58,71)

区の生活圏として、主に小学生の生活領域に相当し、近隣社会としてまとまりを持つことができる地域として区全体を22の区域にわけ設定したもの。住区単位に住区住民会議が組織されコミュニティ活動が行われている

樹木の保全協議制度 (43,61,68)

区みどりの条例により一定要件の樹木等を伐採しようとするときに区と保全に関する協議を行う制度

食育 (21,51)

「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人を育てること

(健康めぐる21)。食育基本法第3条では、食育の推進に当たっては、国民の食生活が、自然の恩恵の上に成り立っており、また、食に関わる人々の様々な活動に支えられていることについて、感謝の念や理解が深まるよう配慮されなければならない、としている

植生 しょくせい (47,58)

ある範囲内に生育する樹木や草本など全植物の集団

食品ロス (25,70)

廃棄されるなど、無駄になる食品。日本では年間500～800万トンと試算されているが、これは日本のお米の年間収穫量約813万トンにほぼ匹敵する(消費者庁「食べ物の無駄をなくそうプロジェクト」)(区報2013(平成25)年5月15日号)

巣箱モニター (48,53)

区の事業。区が配布するシジュウカラ(区の鳥)の巣箱を庭等に設置し、巣作りや巣立ちヒナ数を観察し、調査票により区に報告する。1984(昭和59)年から実施

生産緑地 (15)

都市計画の地区のひとつ。防災性の高いオープンスペースとして、また貴重な緑地として、良好な都市環境の形成に寄与する農地等のうち、適正に管理されたものを指定し、その保全に努めている。2014(平成26)年1月1日現在指定地区数は、17地区で、指定面積は約25,610平方メートルとなっている

生態系ピラミット (28)

生物種間には食物連鎖といわれる、食べる、食べられるという関係があり、食べる生物は、食べられる生物よりも数が少ない傾向にある。最も数が多い生物は例えば落ち葉や遺骸等を分解し土(植物の栄養)に戻す分解者、次に数が多いいきものは植物等(生産者)、その生産者を食べるいきものは一次消費者(草食動物)、一次消費者を食べるいきものは二次(高次)消費者(肉食相物)といわれる。個体数の多い順に分解者、生産者、消費者と積み上げるとピラミッドの形になる

生物季節 せいぶつきせつ (23,85)

花の開花日やセミの鳴き出し日など、季節によって起こる動植物の行動や現象のこと。経年変化や気候等との関連を研究する学問を生物季節学(フェノロジー)という。全国の気象台において観測された1961～2004(昭和36～平成16)年のデータによれば、地球温暖化の影響で、春から夏にかけて、ツバキ、ウメ、タンポポ、サクラ、ノダフジ、ヤマハギの開花とイチ

ヨウの開芽が、年々早くなる傾向が見られている(環境省地球温暖化影響・適応研究委員会報告書「気候変動への賢い適応」)。区ではウグイスの初音、ヒキガエル の産卵など継続的な調査を実施

生物多様性基本法 (2,3,73,84)

生物多様性の保全及び持続可能な利用について基本原則を定め、国、地方公共団体、事業者、国民及び民間の団体の責務を明らかにするとともに、生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する施策の基本となる事項を規定した法律(環境白書)

生物多様性国家戦略 (3,74,85)

生物多様性国家戦略は、生物多様性条約第 6 条及び生物多様性基本法第 11 条の規定に基づき、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する政府の基本的な計画(環境省)

生物多様性条約・生物多様性条約締約国会議 (2,3,85)

生物の多様性の保全、その構成要素の持続可能な利用及び遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分を目的とした条約(環境白書)。近年、条約締約国会議(COP)が 2 年に 1 度開かれており、2010(平成 22)年には、愛知県名古屋市で第 10 回締約国会議(COP10)が開催された

同時に開催された生物多様性国際自治体会議では、都市部は世界の人口の半数以上の人々が集中し(国連資料)生物多様性の恩恵を受けていることから、市民が自然に親しめ、生物多様性に配慮した都市環境を管理することや、生物多様性に関する意識啓発などが重要という愛知・名古屋宣言を行った

生物多様性地域戦略 (2,3,28,77)

生物多様性基本法第 13 条に基づいて、都道府県、市町村が策定する生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画

生物多様性の危機 (2,22)

生物多様性は、現在世界的な危機に瀕しており、日本では、生物多様性の劣化原因として、4 つがあげられている→P.85

生物多様性に関する本 (51)

国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J)は、生物多様性の普及啓発等に資するものとして、「子供向け図書」(愛称「生物多様性の本箱」～みんなが生きものとのつながる 100 冊～)を推奨している

生物多様性保全林 (43,48,57,61,62)

区の施策。公園や公共施設等で、持続性がある一定規模以上の緑地についてエリアを位置づけ、いきものの生息拠点となるよう保全を図るもの。保全にあたっては地域の活動等と連携する。制度化を検討する

清流復活事業 (43)

1995(平成 7)年に開始された東京都の「城南河川清流復活事業」。新宿区の落合水再生センターで処理した高度処理水を目黒川、呑川、古川(渋谷区～港区)に放流し、川の水量を増す。この事業や湧水の導水事業等により目黒川では東京湾からの遡上生物が増加している

雑木林 そうきばやし

(6,15,20,25,39,43,46,48,57,58,59,62,63,82,83)

里山に形成される人の手で維持、育成される樹林。関東地方では、クヌギやコナラなどの広葉樹の樹林が多い。十数年に一度萌芽更新を図り、伐採した材を炭作りや、シイタケ栽培などに用いた

絶滅のおそれのある種等 (18,21,43,58,60,67)

→レッドリスト

そだ そだ垣 そだがき (40,47,62,65)

粗朶(そだ)は、切り取った木の枝のこと。そだを組んでつくる垣根がそだ垣で、里山等で見られる

た行

鷹狩り たかがり (10)

飼い馴らしたハヤブサ、オオタカ、ハイタカなどのタカを放って野禽(やきん)、小獣を捕えさせる狩猟

たけのこタウン (49)

エコライフめぐろ推進協会が発行する環境にやさしいすまいづくり、まちづくりに関する情報誌

地産地消 ちさんちしょう (33)

地元で生産されたものを地元で消費すること。生産者と消費者の距離が縮まり、健康や環境に良いものの提供を行うもの。地域の生産者と消費者の連携が密になることで、コミュニティ形成に役立ち、独自の文化などの発展にも寄与するといわれている

チョウの道 (40,55,62,63,64,65)

チョウの通る道

剣の舞 つるぎのまい (33)

区の伝統文化。八雲氷川神社と下目黒の大鳥神社に伝わる(区 HP)

どんぐり林(りん)活動 (48)

区の事業。クヌギやコナラのどんぐりをポット等で育て、公園や学校に雑木林を育成する活動。地域や児童等の参加を図る。区民キャンパス公園開園時の活動で始められた

な行

二十四節気 にじゅうしせっき (7)

太陽の運行をもとに、1年を約15日ごとに24節に分け、その区切りとなる最初の日に、その時季の自然の現象をあてはめて作られた24の暦。むかしは月の運行にもとづく太陰暦(旧暦)を使っていたので、暦の月日と季節変化がそろわない場合があり、農作業など季節に応じた作業をするのに不便だったためつくられた。節気は立春から始まる(P.4 図中に記載)

21の提言 (53,表紙3)

区の事業。いきものたちとふれあうための21の方法(表紙3)。ビオトープ活動などの学習に用いている。1999(平成11)年の「20世紀の生きものたち記録委員会」の提言

は行

パークコミュニケーション (54)

公園での活動から生まれる地域のコミュニケーション。生物多様性を確保していくためには、地域に根差した継続的な活動が不可欠で、多様な主体のボランティア参加や、指定管理者による公園管理運営、さらには専門知識を有するコーディネーターの活用などにより、区民、活動団体、事業者等の参加と協働が必要である。これらの活動による効果は、公園を拠点としたまちづくりにつながるもので、今後みどりの基本計画にパークマネジメントとともに位置付ける

パッチ状 (38,46)

複数のものが入り混じっている状態

花とみどりの学習館 (50,51,52,58,63,70,73)

中目黒公園にある全区施設。園芸や土、身近な自然に接する経験を通して、自然環境への理解を深めるなどの学習やみどりのボランティア活動の拠点

ヒートアイランド現象 (22)

都心域の気温が郊外に比べ高くなる現象で、等温線を書くと島状に見えるためヒートアイランド(熱の島)といわれる。人工排熱(冷暖房・自動車)の増加や、自然(土・水面・緑地等)の減少が原因で引き起こされる(環境基本計画)

ビオトープ

(2,6,14,16,21,33,42,47,51,58,59,61,62,63,73,82)

いきものの生息する場所のことをいう。都市内などでは、多様ないきものたちが形づくる小規模な生態系をビオトープとして捉え、小学校では環境を考えた総合学習などに幅広く利用されている

標準和名 (目3,38,87)

種名の標準的な日本語の呼び名。単に和名ともいう。学名(ラテン語)のようにひとつの種に対してひとつが定められているものではない

節成きゅうり ふしなりきゅうり (7)

きゅうりの品種。かつての目黒の産物のひとつ

船入場 ふないりば (11,56,67)

中目黒1丁目の田楽橋上流付近の目黒川に残されている、船を引き入れて荷揚げをするために川幅を広げた部分。場所により深さに変化があるようにつくられていて、水辺のいきものがすみやすい場所を提供している。2001(平成13)年には自然石を積んだ島を設置し、多摩川の河口近くからシオクグやアイアシが移植され、生育している

冬日 (22)

一日の最低気温が摂氏0℃未満になる日

萌芽更新 ぼうがこうしん (39,46,58,62,63,82,85)

樹木は、伐採後に切り株や根から新しい芽(これを「萌芽」と呼ぶ)が伸びる。このような樹木の性質を利用して伐採後に森林を造成する手法を萌芽更新という

ま行

埋土種子 まいどしゅし (47)

土中に含まれている植物の種子。長期間を経て発芽するものもある

マント・ソデ群落 (46)

植生のタイプ。森林の外側に発達するツル植物や小低木が繁茂する場所。マント群落は、森林内への風の

吹き込みを防ぎ、カーテン群落ともいわれる	方法
みどり →P.6	目黒天空庭園 めぐろてんくうていえん (6,10,15,20,49,58,73,77) 区立の立体都市公園。首都高速道路大橋ジャンクションの上部を利用
緑施策の新展開(東京都) (3,73) 生物多様性基本法に基づく東京都の生物多様性地域戦略	目黒十五庭 めぐろとうごてい (6,15,49,73) 区役所総合庁舎の屋上にある屋上緑化
みどりのカーテン (21) 建物の壁面や窓等をツル性の植物で覆い、夏の日差しを遮ることで、壁や部屋の温度を下げる地球にやさしい自然のカーテンのこと	目黒のさんま祭 (6,50) 目黒区民まつりの中で行われるイベント。落語「目黒のさんま」に因んだまつりで、毎年9月に開催される。気仙沼市民から「新鮮なさんま」が贈られる
みどりの散歩道 (33,50,53,64,65,69,70,72) 区の事業。区内に設定された散歩道。身近な公園や、神社、お寺などを結んだ9コースがあり、コースガイドが販売されている。目黒区版のエコツーリズム(地域の自然や文化等について知識を有する者から案内又は助言を受け、自然や文化の保護に配慮しながらそれらと触れ合い、知識及び理解を深めるための活動)の推進事業のひとつ	目黒ばやし (33,72) 1978(昭和53)年に区指定無形民俗文化財に指定された祭囃子(まつりばやし)。演奏は、小太鼓(こだいこ)の「シラベ」2名、大太鼓の「オオドウ」1名、篠笛(しのぶえ)の「トンビ」1名、鉦(かね)の「ヨスケ」1名の計5名の構成で行われる(区HP)
みどりの条例 (17) 1991(平成3)年に施行された条例。みどりに関する実態調査、みどりの基本計画策定、保存樹木等の指定、緑化計画制度、みどりの普及啓発や、区長・区民・事業者等の責務などが規定されている	百舌の糞 もすのにえ (11) モズが秋に虫などを捕えて木の枝に貫いておくもの。速糞(はやにえ)ともいう
めぐろグリーンアクションプログラム (21, 70) 区民・事業者における環境配慮の具体的な取り組み(省エネ・緑化等)を支援するためのプログラム。家庭版・事業所版・学校版がある(区環境基本計画)	モニタリング (57,61) 定期的に物事や事象の変化を調べること。生物多様性の確保のために、動植物の分布等をモニタリングしていくことが重要とされている
目黒区環境基本計画 (3,35) 区環境基本条例に基づき、区、区民、事業者などがそれぞれの立場から、環境基本条例に掲げられた基本的理念を実現するための基本となる計画	森のみどり人 もりのみどりと (54) 区の事業。自然観察や萌芽更新作業など、里山の環境を保全する活動を行っている公園活動登録団体
目黒区みどりの基本計画 (6,22,54) 都市緑地法及び区みどりの条例に基づき、緑地の保全や緑化の推進、普及啓発を図る基本計画	や行
目黒三社 めぐろさんじゃ (10) 区内の大鳥神社、瀧泉寺(目黒不動)、高幢(こうとう)寺金比羅権現社のこと。高幢寺は廃寺となっている	谷戸 やと (16) 谷あいになった地形。区には川の名に谷戸前川があり、緑道名(谷戸前川緑道)として伝えられている
目黒式竹林管理 (46) かつての目黒で行われていたモウソウチク林の管理	有機農法 (47) 化学肥料及び農薬を使用しないこと、遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法のこと(農林水産省HP)

ら行

ラインセンサス (66)

生物の分布状況調査法のひとつ。調査コースを設定し、一定の速度で移動して種名や個体数等を記録する

落語「目黒のさんま」 (6)

落語の話のひとつで、区が舞台になっている

緑化計画制度 (44,61,65,68)

条例等に基づく緑地等の附置義務制度。区では、駐車場の設置や、敷地面積 200 平方メートル以上の建築行為等行うときに、あらかじめ緑化についての計画書の提出及びその内容の履行を義務付けている

緑被率 りょくひりつ (17,22)

上空から見て、樹冠や草地などみどりで覆われた面積が占める割合

林床 りんしょう (38,43,46,62,82)

森林の樹下の環境。林を構成する高木の種別により、草や低木、動物、菌類などが独特の生態系を構成する

レッドリスト (18,20,42,60)

絶滅のおそれのある野生生物のリスト。国や地域単位で作成している。レッド(赤い色)は、『危ない』という意味で用いている。絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律による希少野生動植物種の指定の際などに利用。

区独自の調査によるレッドリスト作成はないが、区で見られた野生動植物に対して、国のレッドリスト又は東京都のレッドリスト(区部)に該当する種に対する区分を当てはめている。国は第 4 次レッドリスト(環境省 2012(平成 24)年)、東京都は、東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～2010(平成 22)年版による。指定の区分は次のとおり

[環境省レッドリストの区分]

絶滅危惧Ⅰ類(絶滅の危機に瀕している種)、絶滅危惧ⅡA 類(ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種)、絶滅危惧ⅡB 類(ⅡA 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種)、絶滅危惧Ⅲ類(絶滅の危険が増大している種)、準絶滅危惧(現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種)、情報不足(評価するだけの情報が不足している種)

[東京都レッドリストの区分(抜粋)]

絶滅(当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めすでに絶滅したと

考えられるもの)、野生絶滅(当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの)、絶滅危惧Ⅰ類(現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの)、絶滅危惧ⅡA 類(ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)、絶滅危惧ⅡB 類(ⅡA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)、絶滅危惧Ⅲ類(現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの)、準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)、情報不足(環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの)、留意種(現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、①～⑧の選定理由(原典参照)のいずれかに該当し、留意が必要と考えられるもの)

わ行

ワンド (39)

河川や湖の入江のこと。湾土(わんど)ともいう

アルファベット

ICT (54)

情報・通信に関連する技術一般の総称(区情報化推進計画)

COP10 (2) →生物多様性条約締約国会議

CSR (54)

Corporate Social Responsibility の略。企業の社会的責任

附-10 出典と参考資料(敬称略)

○出典

- P.2 図 1-1 平成 23 年版 図で見る環境・循環型社会・生物多様性白書(環境省)を基に作成
- P.8 図 2-1,2 目黒区基本計画(2000(平成 12)年:目黒区)
- 図 2-3 東横線から見た目黒区の地形:目黒区住宅・街づくりセンター
- P.9 図 2-4 目黒区基本計画(2000(平成 12)年:目黒区)
- 図 2-5 (標高)国土地理院基盤地図情報数値標高モデル(10mメッシュ)533935「東京西南部」を基に加工
- (坂名)改定目黒区の文化財(1993(平成 5)年:目黒区教育委員会)
- P.10 図 2-6 めぐろ歴史資料館資料
- P.11 表 2-2 ・目黒「生きもののたちの原風景」(1998(平成 10)年:郷土研究第 42 集:目黒区郷土研究会)
- ・1997~1998 (平成 9~10)年頃に実施した川の資料館でのヒアリング調査
- P.12 図 2-7 :江戸名所図会 駒場野
- 図 2-8 東京近郊名所図会
- 図 2-9 地図で見る東京の変遷(平成改訂版 財)日本地図センター発行)を基に加工
- 図 2-10 国土地理院 1 万分の 1 地形図碑文谷(明治 42 年測図昭和 4 年第 3 回修正測図)を基に加工
- P.13 写真 (提供)東急電鉄本社、目黒区めぐろ歴史資料館、目黒区広報課
- あの日 この顔(1982:目黒区)
- 写真集 目黒の風景いま むかし(1993:目黒区守屋教育会館)
- 写真集 目黒の風景 100 年(2001:目黒区めぐろ歴史資料館)
- P.16 図 2-11 駒場野公園野鳥定点観察記録(駒場野自然クラブ麻生敬 1986~:目黒区保有)
- 駒場野公園クモ観察リスト(駒場野自然クラブ麻生敬 1990~:目黒区保有)
- P.17 図 2-12,13 目黒区のみどり 緑の実態調査報告書(2004(平成 16)年:目黒区)
- P.18 表 2-3 目黒区いきもの住民台帳 暫定版(2010(平成 22)年:目黒区)URL→P.101
- P.19 表 2-5 日本甲虫学会会員 上田衛門選(2012(平成 24)年:区民による身近な生物調査:目黒区)
- 表 2-6 東京大学駒場自然科学博物館長 伊藤元己選(2012(平成 24)年:区民による身近な生物調査:目黒区)
- 表 2-7 クロマダラソテツシジミの東京都目黒区での記録 中村謙介(2010(平成 22)年月刊むし 467)
- 表 2-8 目黒区で発見された新種:東京大学ホームページ 2013.12.26 トピックス【研究発表】東京大学駒場キャンパス内で新種のカメムシを発見(東京大学大学院総合文化研究科 石川忠、同研究科 伊藤元己、アメリカ自然史博物館 安永智秀)
- <http://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/news/topics/20131226161103.html>
- P.21 事業所(企業等)が取り組む活動の例
- 例 1 2012(平成 24)年調査、「東京都市域の緑地における鳥類の種組成とハビタット特性に関する研究」(株式会社竹中工務店技術研究所)
- 例 2 2007(平成 19)年よりピオトープづくりを通じた環境教育プログラム、「わくわく子どもの池プロジェクト」に取り組む(NEC キャピタルソリューション株式会社)
- 例 3 2011(平成 23)年調査、「当社周辺の緑地の生物調査報告書」(東急建設株式会社土木本部環境技術部)
- 例 4 2011(平成 23)年、「おおはし里の杜」を整備し、動植物の経年変化を調査するなど、自然環境の再生活動に取り組む(首都高速道路株式会社)
- 図 2-14 目黒区の環境(2013(平成 25)年:目黒区)
- P.22 図 2-16,17 気象庁 HP よりデータを引用し作成
- 図 2-18 目黒区のみどり 緑の実態調査報告書(2004(平成 16)年:目黒区)
- 図 2-19 目黒区史(東京都立大学学術研究会編集 1956 :目黒区)P.532,P.691,P.1092
- 区政概要(昭和 40 年版:目黒区)
- 緑の実態調査書(1993(平成 5)年:目黒区)
- 目黒区のみどり 緑の実態調査報告書(2004(平成 16)年:目黒区)
- (鳥類の変化)目黒区自然環境基礎調査結果(1999(平成 11)年:目黒区保有)
- P.23 目黒区世論調査(2011(平成 23)年)
- P.25 図 2-25,26
- P.45 図 4-4 チョウの来る植物 街の自然 12 か月(1982(昭和 57)年:目黒区)
- P.49 図 4-13 街の自然 12 か月(1982(昭和 57)年:目黒区)
- P.52 図 4-17 環境省 http://www.env.go.jp/policy/hozen/green/ecolabel/a01_01.html
- <http://www.env.go.jp/nature/shinrin/fpp/certification/index3-3.html>
- P.53 図 4-19 生物多様性事業のロゴマーク <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/logo/>
- 図上:生物多様性コミュニケーションワード 図下:国連生物多様性の 10 年ロゴマーク
- P.56 表 4-5 (近隣区の鳥類の観察例)
- ・林試の森公園・目黒川:生物多様性基礎調査(品川区)

- ・洗足池公園:水辺環境改善対策水生生物調査報告書(大田区)
 - ・世田谷公園・等々力溪谷公園・駒沢オリンピック公園:世田谷の鳥(財団法人世田谷トラストまちづくり)
 - ・自然教育園:インターネット図鑑
<http://www.kahaku.go.jp/exhibitions/vm/sizenen/index.html>
 - ・呑川:呑川の会公式ホームページ 呑川は流れる 2004
<http://home.t07.itscom.net/nomigawa/>
- P.65 図 4-27 都市域のエコロジカルネットワーク計画における動物の移動距離:徳江義宏・大澤啓志・今村史子(2011(平成 23)年)都市域のエコロジカルネットワーク計画における動物の移動分散の距離に関する考察,J. Jpn. Soc. Reveget. Tec. 37(1), 203-206 より作成
- P.66 図 4-29,30 野鳥生息調査報告書(1986(昭和 61)年:目黒区)
- 図 4-31 生物多様性保全基礎調査(公園樹林)報告書(2014(平成 26)年:目黒区)
- P.67 表 4-8 目黒区のチョウ 10 選:日本鱗翅学会会員 久保快哉選
- P.69 図 4-44 目黒区みどり 緑の実態調査報告書(2004(平成 16)年:目黒区)
- P.70 表 4-10 (一人ひとりの取り組みのチェックリスト)
- ・目黒区めぐろ 26 万区民の「だれか」ではなく「わたし」から大作戦の手引き
http://www.city.meguro.tokyo.jp/kurashi/shizen/mondai/green_ka/
 - ・国連生物多様性の 10 年日本委員会 MY 行動宣言
<http://undb.jp/committee/tool/action/>
 - ・(公財)世界自然保護基金ジャパン 普段の暮らしでできること
<http://www.wwf.or.jp/join/daily/>
- P.72 写真提供 国立国会図書館、めぐろ歴史資料館、目黒区広報課
目黒区のあゆみ 写真でたどる区政の変遷(2005(平成 17)年:目黒区)
- P.83 附一4 (在来種)
- ・目黒区の植生概観:曾根伸典(目黒区産動植物目録:1984(昭和 59)年:目黒区)
 - ・東京都現存植生図 (1987(昭和 62)年:東京都環境保全局)
 - ・東京都野生生物種目録(1998(平成 10)年:東京都環境局)
 - ・目黒区のみどり みどりの実態調査報告書(2004(平成 16)年:目黒区)
- (特定外来生物(植物))
- ・環境省(外来種) <http://www.env.go.jp/nature/intro/1outline/index.html>
 - ・日本の外来生物(2008(平成 20)年:自然環境研究センター編)
- P.84 附図-2 地球規模生物多様性概況第3版(2010(平成 22)年:生物多様性条約事務局)「転換点の概念図」を加工 <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/library/index.html>

○参考図書(目黒区)

- 歴史 目黒区史(東京都立大学学術研究会編集 1956(昭和 31)年:目黒区)
- あの日 この顔(1982(昭和 57)年:目黒区)
- 昭和の戦争記録(1991(平成 3)年:目黒区編集)
- 改定 目黒区の文化財(1993(平成 5)年:目黒区教育委員会)
- 写真集 目黒の風景いま むかし(1993(平成 5)年:目黒区守屋教育会館)
- 戦後の庶民生活(1995(平成 7)年:目黒区)
- めぐろの昔を語る(1995(平成 7)年:目黒区教育委員会)
- 東京都目黒区東山遺跡(I・M・N・O 地点)(1999(平成 11)年:目黒区東山遺跡調査団)
- 写真集 目黒の風景 100 年(2001(平成 13)年:目黒区めぐろ歴史資料館)
- 目黒区のあゆみ 写真でたどる区政の変遷(2005(平成 17)年:目黒区)
- 郷土目黒(～2011(平成 23)年:年刊:目黒区郷土研究会)
- 坂・まち みどりの散歩道コースガイド(1991(平成 3)年～:目黒区)
- 坂道ウォーキングのすすめ(2012(平成 24)年:目黒区)
- いきもの 街の自然 12 か月＝目黒区の動植物ガイド(1983(昭和 58)年:目黒区)
- 目黒区産動植物目録(1984(昭和 59)年:目黒区)
- 野鳥生息調査報告書(1986(昭和 61)年:目黒区)
- 公園の育児書 駒場野自然クラブ観察記録(1987(昭和 62)年:目黒区)
- 緑の実態調査書(1993(平成 5)年:目黒区)
- ひとと木のうた めぐろ区樹木ガイド(1993(平成 5)年:目黒区)
- 公園で観察できるキノコについて(Jul/1999(平成 11)年:都市公園No.145_大館一夫)
- 目黒区のみどり 緑の実態調査報告書(2004(平成 16)年:目黒区)
- 駒場野公園 20 周年記念誌＝みんなと育った 20 年(2005(平成 17)年:目黒区)

○参考資料(生物分類)

植物	植物目録 1987 電子ファイル(1995(平成 6)年 3 月修正):環境庁 日本の樹木(1985(昭和 60)年:林弥栄編) 日本の野生植物 草本Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(1982(昭和 57)年:大井次三郎ほか編) 日本の野生植物 木本Ⅰ・Ⅱ(1989(昭和 64)年:佐竹義輔ほか編)
哺乳類	日本産野生生物目録 脊椎動物編(1993(平成 5)年:環境庁)
鳥類	日本鳥類目録 改訂第 7 版(2012(平成 24)年:日本鳥学会)
両生は虫類	日本産爬虫両生類標準和名(2009(平成 21)年:日本爬虫両棲類学会)
魚類	日本産野生生物目録 脊椎動物編(1993(平成 5)年:環境庁)
昆虫類	日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ(1995(平成 7)年:環境庁) 日本産蛾類総目録 神保宇嗣,2004-2008. http://listmj.mothprog.com/
クモ類	日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(1993~1998(平成 5~10)年:環境庁) 日本のクモ(2006(平成 18)年:新海栄一著)
その他動物	日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(1993~1998(平成 5~10)年:環境庁)
菌類	日本のきのこ(1992(平成 4)年:今関六也ほか編) 都会のキノコ図鑑(2007(平成 19)年:大舘一夫 長谷川明監修)

○参考ホームページ

- ・生物多様性条約(外務省)
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/seibutsu_tayosei/index.html
- ・生物多様性(環境省生物多様性センター)
<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/>
- ・目黒区いきもの住民台帳(暫定版)
http://www.city.meguro.tokyo.jp/gyosei/tokei/chosa_hokoku/ikimono_daicho.html
- ・レッドリスト
東京都 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2010 年版(2010:東京都環境局)
http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/nature/animals_plants/rare_creature/red_data_book/
環境省 2007 年第二次見直し後のレッドリスト
http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html
- ・国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J)
<http://undb.jp/>
- ・IUCN-J 国際自然保護連合日本委員会 にじゅうまるプロジェクト
<http://bd20.jp/>

○公園未来マップ活動参加(活動公園名と公園活動登録団体名)

駒場野公園	駒場野ホタルの会 こまばリサイクルの会 森のみどり人
菅刈公園	NPO法人菅刈ネット 21
目黒天空庭園・オーパス夢ひろば	NPO法人大橋エリアマネジメント協議会 目黒天空庭園栽培ガーデニングクラブ オーパス夢ひろば運動・スポーツ・遊びクラブ オーパス・ドッグ・クラブ
東山公園	目黒サンクチュアリーズ めぐろ遊び場づくりの会
中目黒公園	さーくる・ガーデン・クラブ いきもの池・原っぱクラブ なかメディアボードクラブ 健康とスポーツ 2002 クラブ 有機クラブ 中目黒わんわんクラブ
碑文谷公園	碑文谷公園くらぶ

○写真・イラスト

- 写真 区民、自然通信員、上田衛門、東邦大学 西廣淳(特定外来生物)、安永 智秀(新種のカメムシ)
NEC キャピタルソリューション株式会社、首都高速道路株式会社、国立国会図書館、めぐろ歴史資料館、
目黒区広報課、目黒区
- イラスト 区民による身近な生物調査環境学習資料(水谷高英、飯島英明ほか)

附-11 要 約

私たち一人ひとりの日々の暮らしは地球規模の生物多様性に支えられています。しかし、近年、世界的な生物多様性の損失が進行し、地球の生態系に重大な変化をもたらすおそれがあると言われています。こうした生物多様性の危機的状況の中、日本は1993年に生物多様性条約を締結し、2008年に生物多様性基本法を制定・施行しました。このたび、目黒区は同法に基づき、区の生物多様性地域戦略である、「ささえあう生命の輪 野鳥のすめるまちづくり計画」を策定しました。策定にあたっては、学識経験者、住民等による検討委員会で十分な検討を重ね、また、できる限り多くの区民等の意見を聴取する機会を設け、計画に反映するようにしました。

全域が市街化した都市環境にある目黒区では、住宅地に残る樹木の減少が見られますが、住民は日ごろから庭や学校で身近な自然に親しんでおり、拠点的な公園では地域住民による樹林保全や花作りの活動が盛んです。こうした区の特徴をふまえ、本計画では、野鳥を身近な自然、豊かな生物多様性のシンボルとしてとらえ、「野の鳥の歌が聞こえるまち」を将来ビジョンとして、「多様な環境づくり」、「自然と共生する暮らし」、「すべての主体の協力と連携」の3つの目標にむけ、生物多様性の保全及び持続的な利用に関する施策を展開していくこととしました。

本計画の短期目標は2020年、対象期間は2032年とし、短期目標の指標の進み具合を毎年確認するとともに、自然環境や社会情勢の変化に応じて計画を見直すこととしました。

Summary

Daily life of each of us all in Meguro City is supported by biological diversity on a global scale. And yet, it is said that in recent years as worldwide biodiversity loss has been progressing, the loss might cause grave havoc on the ecosystem of the earth. Given this critical situation of biodiversity, Japan ratified Convention on Biological Diversity in 1993, and consequently enacted Basic Act on Biodiversity in 2008. Based on the Act, Meguro City has formulated this plan, "A Cycle Of Lives Supporting One Another: Plan For Developing A Town Wild Birds Can Inhabit", that is, Meguro City Regional Biodiversity Strategy. In the process of formulating the plan, the city set up the committee for developing its biodiversity strategy consisting of citizens and academic experts, which has ardently deliberated the issues of the plan. At the same time, the city has provided as many opportunities for hearing citizen's opinions as possible, and has incorporated those opinions into the plan, if appropriate.

Although Meguro City, whole area of which has been urbanized, has recently seen the decline of the number of the trees in residential areas, local residents there are enjoying nature close to their daily lives, for example, in their gardens and the nearby schools. In the parks which local residents use as their base for their volunteer activities, they are actively participating in the management and conservation of the trees, and are tending the flowerbeds in the parks. Considering the characteristics of the city and its residents, this strategy regards and adopts wild birds as the symbol of familiar nature and affluent biodiversity. As for specific targets of the strategy, we have proposed "A Town Where Songs of Wild Birds Are Heard" as a future vision of the city, along with the three separate targets, i.e., "Creating diversified environment", "Living in harmony with nature", and "Working with the cooperation of all stakeholders". In this strategy, we have decided to continue to expand the measures for the conservation and sustainable use of biological diversity.

Short-term target year and target period of this plan is 2020 and 2032 respectively. Besides, it has been decided that we will confirm every year the progress indicator of short-term goal, in order to review the plan in response to the changes in socioeconomic conditions and natural environment.

目黒区生物多様性地域戦略 ささえあう生命の輪 野鳥のすめるまちづくり計画

2014(平成26)年3月25日発行

発行

目黒区

◎目黒区



編集

目黒区都市整備部みどりと公園課

東京都目黒区上目黒二丁目19番15号

電話

03(3715)1111(代表)

編集協力

中外テクノス株式会社

目黒区ホームページ <http://www.city.meguro.tokyo.jp/>

この計画は目黒区のホームページで閲覧・ダウンロードできます

目黒区トップページ→行政情報→計画・政策→計画・施策→環境保全で自然にもやさしく

http://www.city.meguro.tokyo.jp/gyosei/keikaku/keikaku/kankyo_hozen/index.html

主要印刷物番号

2 5 - 3 7

目黒区区民憲章

まちづくりのために

わたくしたちは、この目黒区を、わたくしたちの力で明るく住みよい地域社会にするため、つぎのことを心にとめて、その実践につとめます。

- 一 人間性を尊重し、明るい豊かな人間のまちの実現に努力します。
- 一 広く暖かい心を養い、信頼と協力の人間関係を育てます。
- 一 地域のくらしをたいせつにし、緑と水と青い空をまもりまします。
- 一 伝統や文化遺産をたいせつにし、よいしきたりや新しい文化をきずきます。
- 一 こどもからおとしよりにいたるまで、お互いにたすけあい、この目黒区に、生きがいのある生活を実現します。

1977(昭和 52)年 10 月 1 日



目黒区緑化都市宣言

みどりのまちをつくるちかい

思い出してほしい
わたしたちがみどりの中に 生まれ
育ったことを
青い空 木々のこもれ日 季節のささやき
よびかけてる 誰もみな みどりの仲間だと

忘れないでほしい
木も草も 虫も鳥たちもともに暮らす
大切な家族
だから今 かけがえのない 母なる地球を
みんなで分けあっていこう

さあ 始めよう
ひと粒の小さな種をまくことから
大地に根をはり
すくすく枝をのばし
鳥たちがうたい
人びとがやすらぐ
一本の木の種

わたしたちの手で わたしたちの心に
こどもたちに伝える
森をつくろう

1990(平成 2)年 10 月 28 日

いきものたちとふれあうための 21 の方法

ステップ 1 「気づこう」	1	風の歌、風の香りを感じてみよう
	2	雨はいのちのもと、水を汚さない暮らしをしよう
	3	朝、昼、晩、太陽の時間割を思い出そう
	4	うつり変わっていく季節を毎日ひとつ見つけよう
	5	高い空、広い空を見上げてみよう
	6	足元の身近な自然を見つめていこう
ステップ 2 「見つけよう」	7	原っぱの小さいいきものを見つけよう
	8	たまには知らない道を探検してみよう
	9	いろいろな坂道をのぼって、まちの地形を眺めよう
	10	木かげのベンチでほんと一息ついてみよう
	11	みどりの散歩道を歩いて時間をさかのぼってみよう
ステップ 3 「やってみよう」	12	土をはだして歩いてみよう
	13	聞いてみよう、木のおはなし
	14	一粒の小さな種をまく作戦
	15	耕せ、つくろう、たべもの畑
	16	庭やベランダにトンボ池をつくってみよう
	17	落ち葉を土に、落ち葉ンク活動をはじめよう
	18	見て、探して、記録をつけよう、ニュースを出そう
ステップ 4 「伝えよう」	19	まちも森も海も、自然はみんなつながっている
	20	力を合わせていきものたちの家、自然を守ろう
	21	地球に、人にやさしいくらしを伝えていこう

1999(平成 11)年 3 月 20 世紀のいきものたち記録委員会提言



2011-2020

地球のいのち、つないでいこう



国産産 生物多様性に配慮した街づくり

